

親の子供に対する就職期待と キャリア教育に関する調査 (小学校1年生 – 中学校3年生)

株式会社アイDEM

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-4-10 アイDEM本社ビル

お問い合わせ

広報担当 / 望月・栗木

調査担当 / 小杉・岸川

電話 03-5269-8780

kouhousitu@aidem.co.jp

目次

調査概要	・・・・・・・・	p . 3
1 年収	・・・・・・・・	p . 4
2 仕事の充実度	・・・・・・・・	p . 5
3 家族との会話の内容	・・・・・・・・	p . 7
4 親の仕事への興味や関心	・・・・・・・・	p . 8
5 親の働く姿を見せることの是非	・・・・・・・・	p . 9
6 子供に望む学歴	・・・・・・・・	p . 10
7 子供の進路選択や働き方に対する考え	・・・・・・・・	p . 11
8 子供の進路選択や働き方に対する考え①専攻について	・・・・・・・・	p . 12
理系か文系か	・・・・・・・・	p . 12
9 子供の進路選択や働き方に対する考え②学歴について	・・・・・・・・	p . 13
高学歴を望むか	・・・・・・・・	p . 13
10 子供の進路選択や働き方に対する考え③職業選択について	・・・・・・・・	p . 14
職業選択における親の意見への配慮	・・・・・・・・	p . 14
11 子供の進路選択や働き方に対する考え④職業について	・・・・・・・・	p . 15
やりたい仕事か安定した仕事か	・・・・・・・・	p . 15
12 子供の進路選択や働き方に対する考え⑤社会的地位について	・・・・・・・・	p . 16
社会的地位の高さを気にするか	・・・・・・・・	p . 16
13 子供の進路選択や働き方に対する考え⑥会社の知名度	・・・・・・・・	p . 17
会社の知名度を気にするか	・・・・・・・・	p . 17
14 子供の進路選択や働き方に対する考え⑦勤務地について	・・・・・・・・	p . 18
親元の近くで働いてほしいか	・・・・・・・・	p . 18
15 子供の進路選択や働き方に対する考え⑧ワーク・ライフ・バランスについて	・・・・・・・・	p . 19
仕事優先か家庭優先か	・・・・・・・・	p . 19
16 子供に将来なつてほしい職業	・・・・・・・・	p . 20
17 将来のために今身につけるべきこと	・・・・・・・・	p . 22
18 将来のために今必要な経験	・・・・・・・・	p . 23
19 現時点でのキャリア教育の必要性	・・・・・・・・	p . 24
20 家庭で行っているキャリア教育	・・・・・・・・	p . 25
21 キャリア教育として有効なこと	・・・・・・・・	p . 26
22 子供の将来に関して不安なこと	・・・・・・・・	p . 28
23 子供が将来より充実して働くために夏休みに何か経験させたほうが良いと思うか	・・・・・・・・	p . 30
24 夏休みに出された宿題	・・・・・・・・	p . 31
25 自由研究のテーマ	・・・・・・・・	p . 32
26 子供の自由研究を手伝ったか	・・・・・・・・	p . 33
27 自由研究で大変だったこと	・・・・・・・・	p . 34
28 夏休みの宿題に自由研究は必要か	・・・・・・・・	p . 35
29 「身の回りの大人の働く姿にふれるような課題」への参加意向	・・・・・・・・	p . 36

調査概要

調査目的

親がわが子の将来や就職に対してどのような期待や考えを持っているのか、また、子供が将来より充実して働くために必要な、キャリア教育や夏休みの宿題について聴取した。

調査対象

小学校1年生から中学校3年生の子供を持つ男女

調査方法

インターネット調査

調査期間

2019年5月14日～17日

有効回答

3600名

回答者内訳

性別		全体		小1-3		小4-6		中1-3	
回答者性別	子供性別	n	%	n	%	n	%	n	%
男性	男子	900	25.0	300	25.0	300	25.0	300	25.0
男性	女子	900	25.0	300	25.0	300	25.0	300	25.0
女性	男子	900	25.0	300	25.0	300	25.0	300	25.0
女性	女子	900	25.0	300	25.0	300	25.0	300	25.0
計		3600	100.0	1200	100.0	1200	100.0	1200	100.0

年代	全体		小1-3		小4-6		中1-3	
	n	%	n	%	n	%	n	%
20代	33	0.9	31	2.6	1	0.1	1	0.1
30代	1000	27.8	494	41.2	343	28.6	163	13.6
40代	2085	57.9	590	49.2	701	58.4	794	66.2
50代以上	482	13.4	85	7.1	155	12.9	242	20.2
計	3600	100.0	1200	100.0	1200	100.0	1200	100.0

婚姻状況	全体		小1-3		小4-6		中1-3	
	n	%	n	%	n	%	n	%
既婚	3385	94.0	1128	94.0	1139	94.9	1118	93.2
未婚・離別・死別	215	6.0	72	6.0	61	5.1	82	6.8
計	3600	100.0	1200	100.0	1200	100.0	1200	100.0

就労状況	小1-3				小4-6				中1-3			
	男性回答者		女性回答者		男性回答者		女性回答者		男性回答者		女性回答者	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
正社員	538	89.7	149	24.8	527	87.8	115	19.2	511	85.2	127	21.2
自営業・フリーランス等の個人事業主	41	6.8	15	2.5	54	9.0	15	2.5	64	10.7	26	4.3
契約・嘱託社員	8	1.3	14	2.3	10	1.7	13	2.2	18	3.0	18	3.0
アルバイト・パート	4	0.7	7	1.2	2	0.3	13	2.2	2	0.3	11	1.8
派遣社員	9	1.5	236	39.3	5	0.8	213	35.5	4	0.7	229	38.2
無職	0	0.0	179	29.8	2	0.3	231	38.5	1	0.2	189	31.5
計	600	100.0	600	100.0	600	100.0	600	100.0	600	100.0	600	100.0

最終学歴	全体		小1-3		小4-6		中1-3	
	n	%	n	%	n	%	n	%
大卒未満	1731	48.1	514	42.8	587	48.9	630	52.5
大卒以上	1869	51.9	686	57.2	613	51.1	570	47.5
計	3600	100.0	1200	100.0	1200	100.0	1200	100.0

居住地域	全体		小1-3		小4-6		中1-3	
	n	%	n	%	n	%	n	%
北海道地方、東北地方	365	10.1	126	10.5	109	9.1	130	10.8
関東地方	1443	40.1	489	40.8	482	40.2	472	39.3
中部地方	567	15.8	179	14.9	195	16.3	193	16.1
近畿地方	670	18.6	221	18.4	230	19.2	219	18.3
中国地方、四国地方	282	7.8	94	7.8	88	7.3	100	8.3
九州・沖縄地方	273	7.6	91	7.6	96	8.0	86	7.2
計	3600	100.0	1200	100.0	1200	100.0	1200	100.0

- 本調査は回答割合の表示において小数点以下第2位を四捨五入しているため、結果が100.0%にならない場合がある。
- 「平均回答個数」とは、複数回答形式の設問において各回答者が回答した選択肢の個数の平均を示す。

1 年収

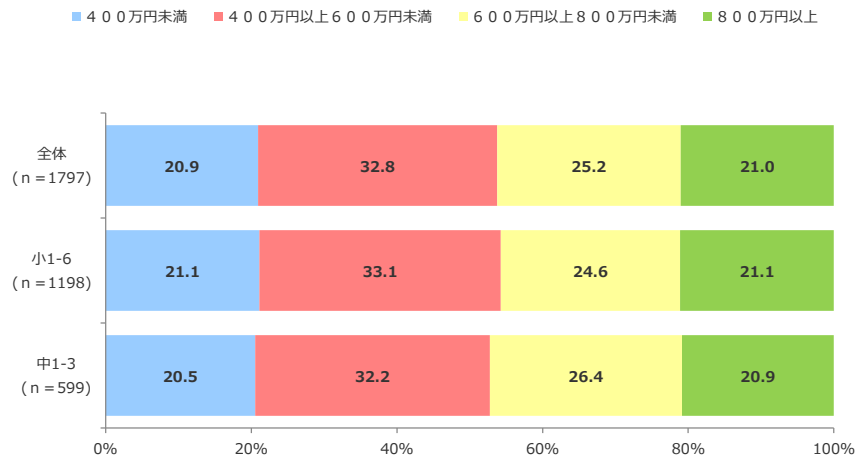
小学校1年生から中学校3年生の子供がいて就労している男女に、1年間の収入を聞いた。

男性の年収は、「400万円以上600万円未満」が32.8%で最も割合が高い。次いで「600万円以上800万円未満」25.2%、「800万円以上」21.0%、「400万円未満」20.9%だった（図1.1）。

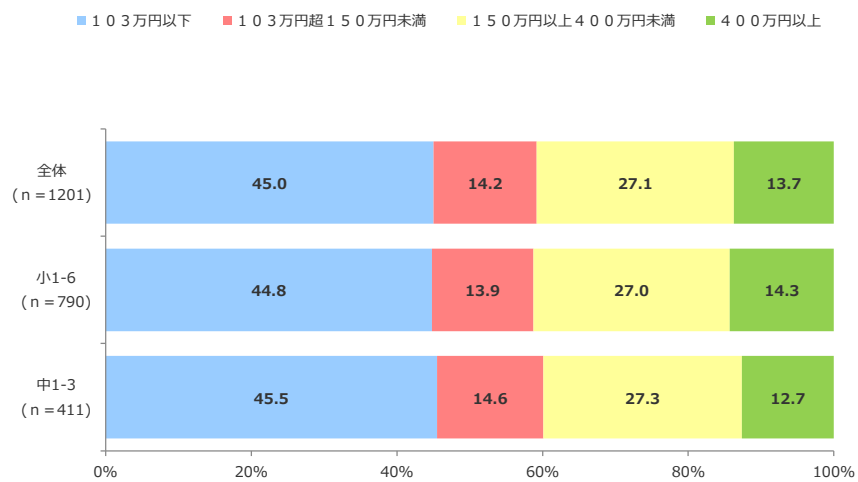
女性の年収は、「103万円以下」が45.0%で最も割合が高く半数近くを占める。次いで「150万円以上400万円未満」27.1%、「103万円超150万円未満」14.2%、「400万円以上」13.7%だった（図1.2）。

学校種別にみても、男性、女性とも全体計と傾向は変わらない。

【図1.1】男性の年収



【図1.2】女性の年収



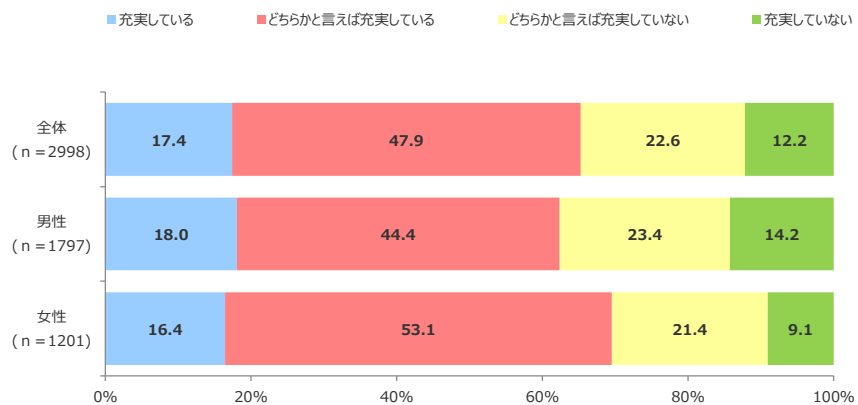
2

仕事の充実度

小学校1年生から中学校3年生の子供がいて就労している男女に、現在の仕事の充実度を聞いたところ、「充実している」17.4%、「どちらかと言えば充実している」47.9%、「どちらかと言えば充実していない」22.6%、「充実していない」12.2%となった。「どちらかと言えば」の選択肢をそれぞれまとめると、「充実している（どちらかと言えば含む／以下同）」が65.3%、「充実していない（どちらかと言えば含む／以下同）」が34.8%である。

回答者の性別で見ると、「充実している」との回答は、男性が62.4%、女性が69.5%で、女性の方が7.1ポイント高くなっていた（図2.1）。

【図2.1】仕事の充実度：回答者性別



さらに、現在の仕事の充実度について、そのように感じる理由を3つまで聞いた。

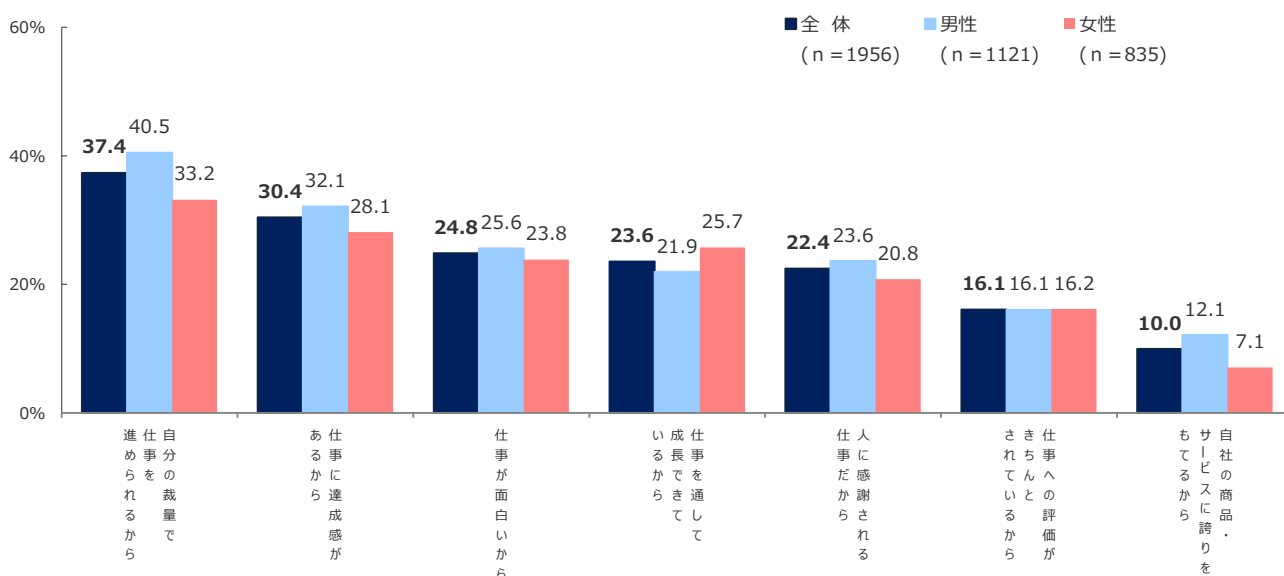
「充実している」と感じている理由としては、「自分の裁量で仕事を進められるから」が最も多く37.4%、次いで「仕事に達成感があるから」30.4%、「仕事が面白いから」24.8%、「仕事を通して成長できているから」23.6%、「人に感謝される仕事だから」22.4%となっている。

回答者の性別でみると、男性は「自分の裁量で仕事を進められるから」「仕事に達成感があるから」が女性に比べて割合が高く、女性は「仕事を通して成長できているから」が男性より割合が高くなっていた（図2.2）。

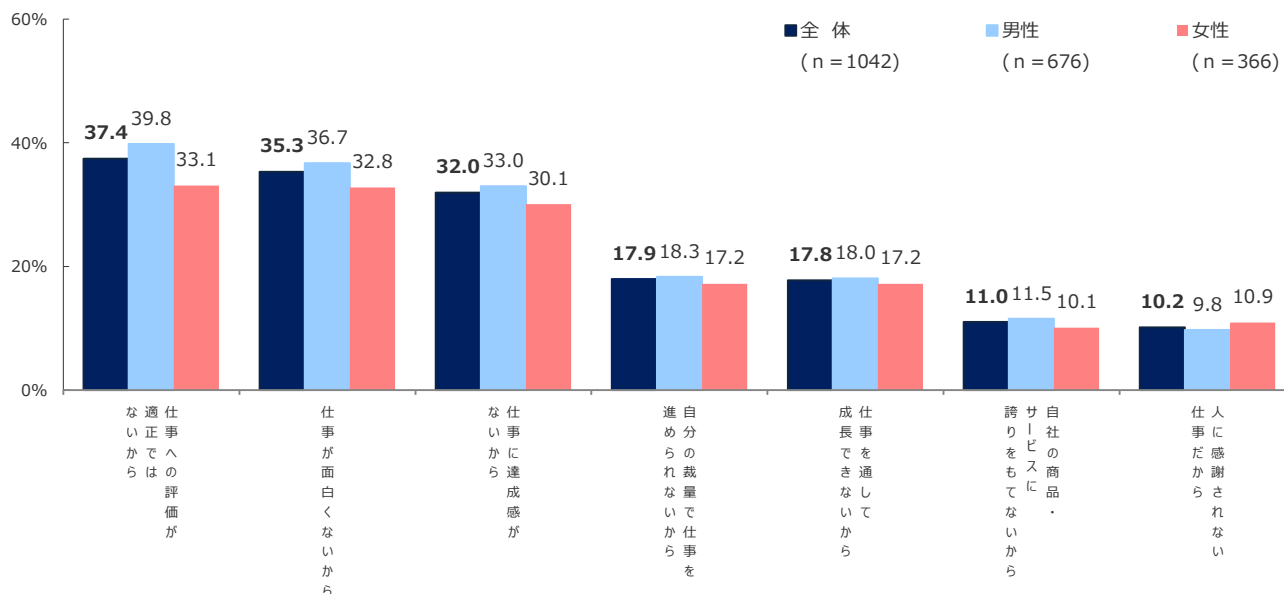
一方、「充実していない」と感じている理由としては、「仕事への評価が適正ではないから」が最も多く37.4%、次いで「仕事が面白くないから」35.3%、「仕事に達成感がないから」32.0%となっている。

回答者の性別でみると、男性は「仕事への評価が適正ではないから」が女性に比べて6.7ポイント高くなっているのが特徴的である（図2.3）。

【図2.2】 充実している理由（3つまで）：回答者性別



【図2.3】 充実していない理由（3つまで）：回答者性別



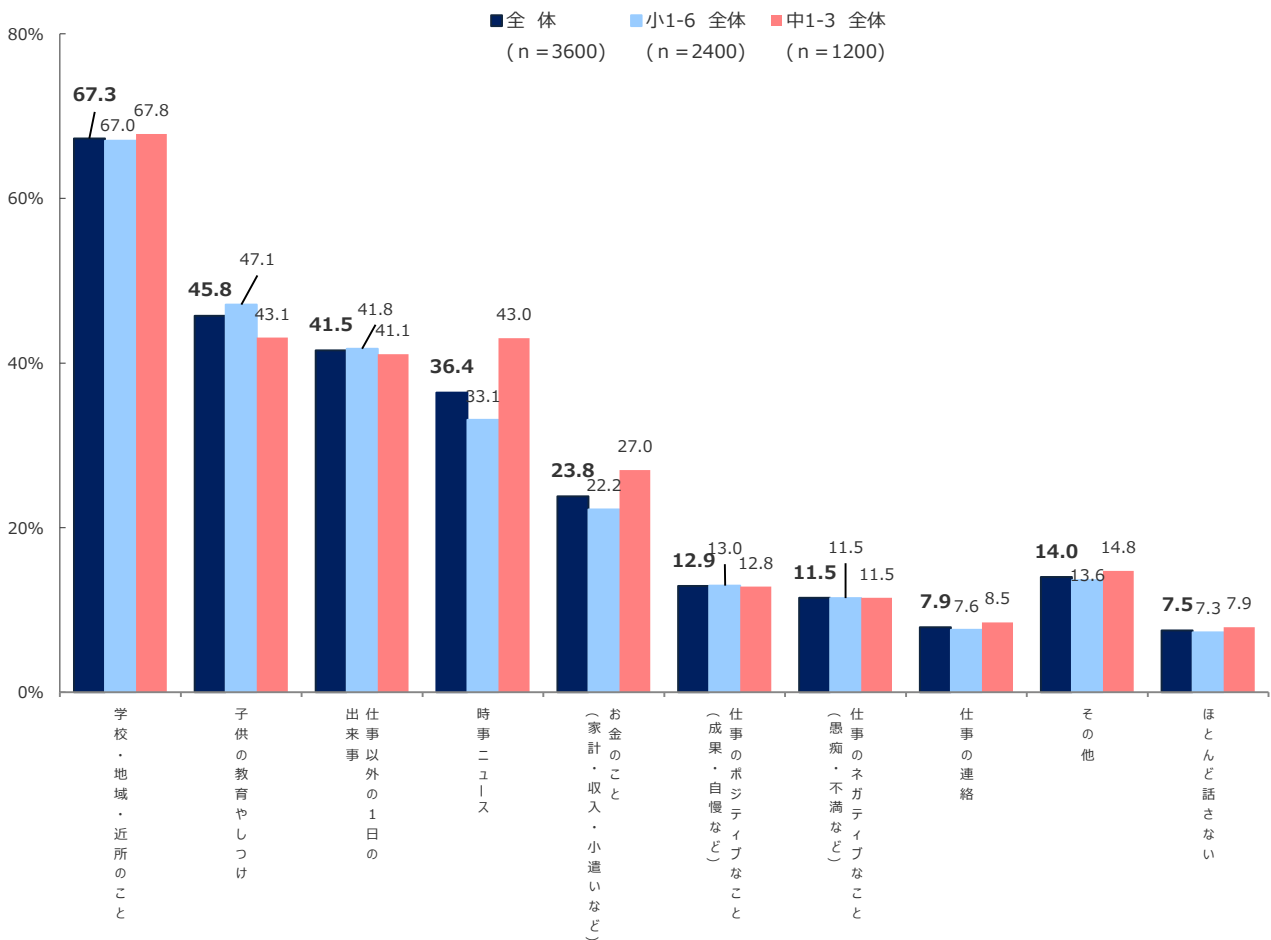
家族との会話の内容

小学校1年生から中学校3年生の子供がいる男女に、子供がいる場で家族で話す内容はどのようなものが多いかを聞いた。

最も多かったのは「学校・地域・近所のこと」で67.3%、次いで「子供の教育やしつけ」45.8%、「仕事以外の1日の出来事」41.5%、「時事ニュース」36.4%となっている。

子供の学校種別でみると、「子供の教育やしつけ」は小学生の親の方が割合が高く、「時事ニュース」や「お金のこと（家計・収入・小遣いなど）」は中学生の親の方が割合が高くなっている。家庭内での会話も、子供の成長に応じた話題になっているようだ（図3）。

【図3】 家族との会話の内容



親の仕事への興味や関心

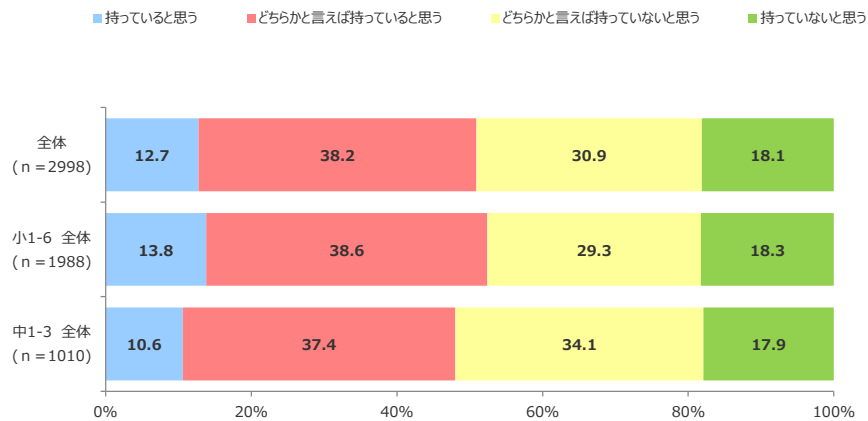
小学校1年生から中学校3年生の子供がいて就労している男女に、子供が親の仕事について話をしたり質問をするなど興味や関心を持っていると思うかを聞いた。

全体では、「持っていると思う」12.7%、「どちらかと言えば持っていると思う」38.2%となり、合わせて50.9%の回答者が、子供は親の仕事への興味や関心を「持っていると思う」と回答している（図4.1）。

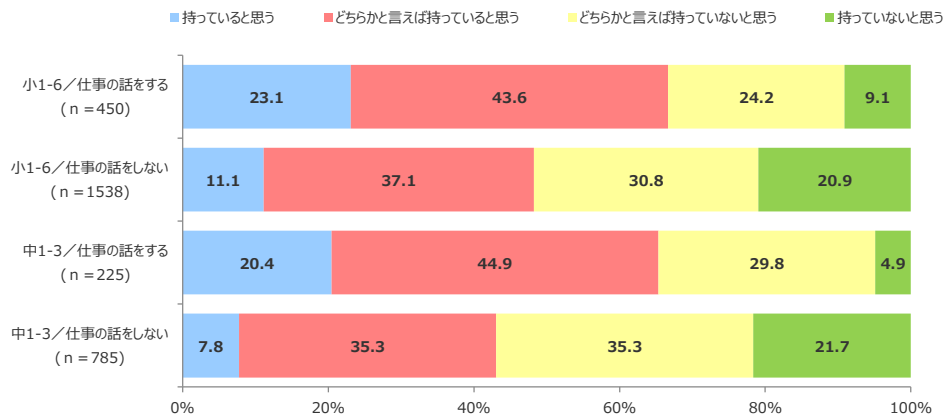
学校種別にみると、小学生の方が親の仕事への興味や関心を「持っていると思う」の回答割合が高い。

また、「3.家族との会話の内容」について、「仕事のポジティブなこと（成果・自慢など）」「仕事のネガティブなこと（愚痴・不満など）」「仕事の連絡」のいずれかを選択している回答者を「仕事の話をする」、それ以外の者を「仕事の話をしていない」に分けて関係を見ると、「仕事の話をする」家庭の方が、「仕事の話をしていない」家庭と比べて、小学生、中学生どちらも親の仕事への興味や関心を「持っていると思う」と回答した割合が高くなっている（図4.2）。家庭内で仕事の話をすることで、子供は親の仕事への興味や関心を持つようだ。

【図4.1】親の仕事への興味や関心



【図4.2】親の仕事への興味や関心：家族との会話の内容別



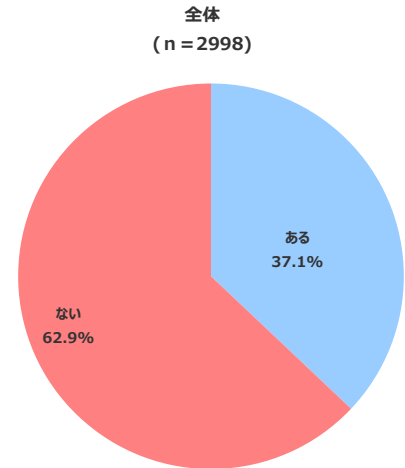
親の働く姿を見せることの是非

小学校1年生から中学校3年生の子供がいて就労している男女に、自身の働く姿を子供に見せたことがあるかを聞いたところ、「ある」が37.1%、「ない」が62.9%となった（図5.1）。

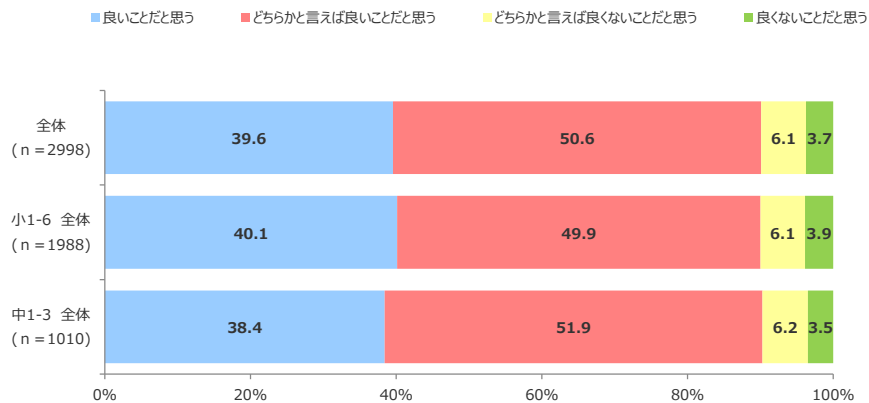
【図5.1】働く姿を子供に見せたことがあるか

また、自身の働く姿を子供に見せることは良いことだと思うかを聞いたところ、「良いことだと思う」が39.6%、「どちらかと言えば良いことだと思う」が50.6%で、合わせて90.2%が肯定的に捉えていた（図5.2）。

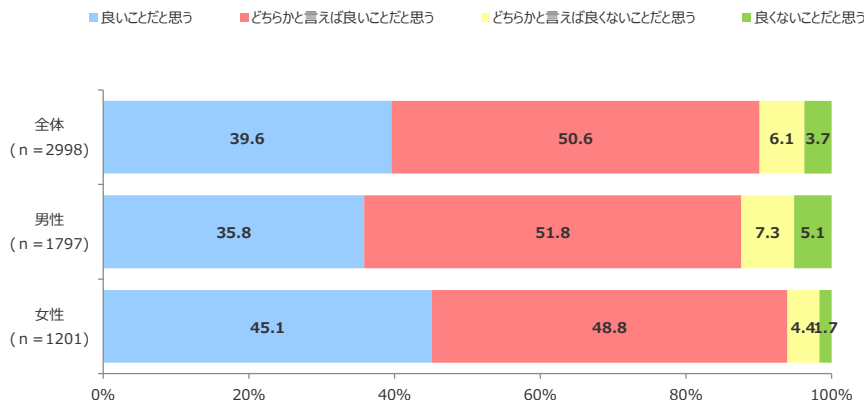
回答者の性別でみると、「良いことだと思う」の割合は男性35.8%、女性45.1%と女性の方が9.3ポイント高くなっており、母親である女性の方が自身の働く姿を子供に見せることについてより強い肯定感がある（図5.3）。



【図5.2】親の働く姿を見せることは良いことだと思うか



【図5.3】親の働く姿を見せることは良いことだと思うか：回答者性別



子供に望む学歴

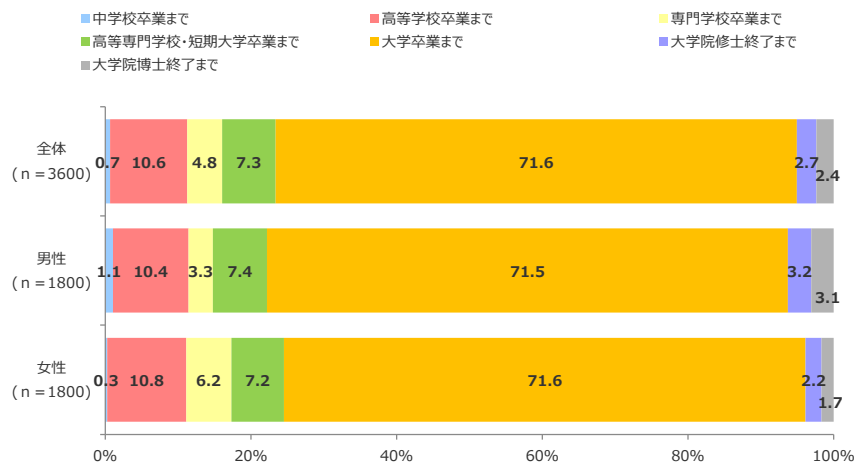
小学校1年生から中学校3年生の子供がいる男女に、子供に将来どこまでの学歴を望むかを聞いた。

全体では、「大学卒業まで」が71.6%と7割強を占め、次点は「高等学校卒業まで」で10.6%となった。「中学校卒業まで」から「高等専門学校・短期大学卒業まで」の回答を「大卒未満（以下同）」、「大学卒業まで」から「大学院博士終了まで」の回答を「大卒以上（以下同）」とまとめると、子供に望む学歴は「大卒未満」が23.4%、「大卒以上」が76.7%となっている（図6.1）。

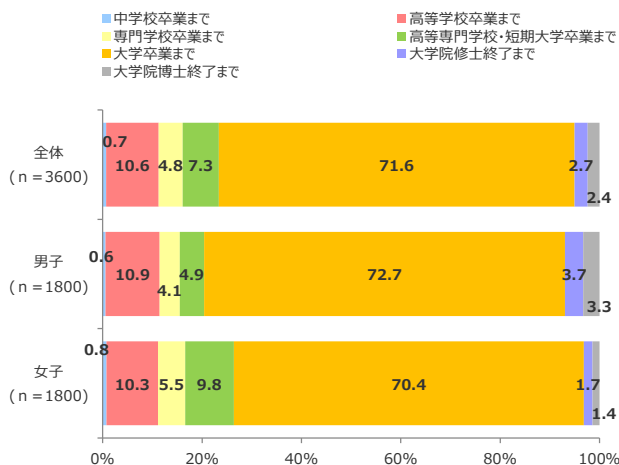
子供の性別で親が子供に望む学歴をみると、男子は「大卒未満」20.5%、「大卒以上」79.7%、女子は「大卒未満」26.4%、「大卒以上」73.5%となり、女子に比べて男子に「大卒以上」の学歴を望む親の割合が高く、6.2ポイントの差があった（図6.2）。

また、親の最終学歴別に子供に望む学歴をみると、子供に「大卒以上」を望むのは、最終学歴が大卒未満の親が64.1%、大卒以上の親が88.3%となっており、大卒以上の親の方が24.2ポイント高くなっていた（図6.3）。子供には自身と同等以上の教育を受けさせたいと考えている親が多いことがうかがえる。

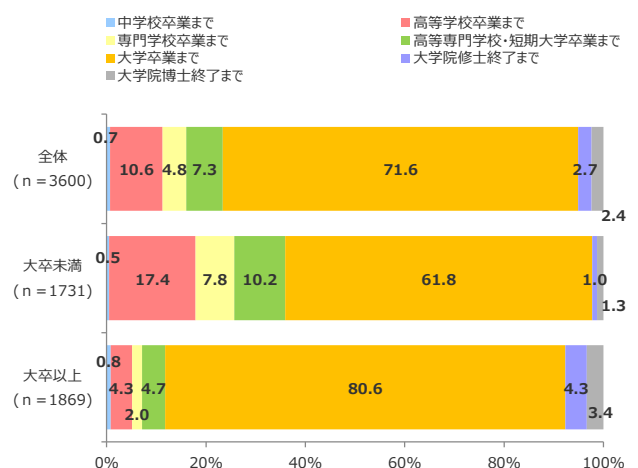
【図6.1】子供に望む学歴：回答者性別



【図6.2】子供に望む学歴：子供性別



【図6.3】子供に望む学歴：回答者の最終学歴別



子供の進路選択や働き方に対する考え

小学校1年生から中学校3年生の子供がいる男女に、子供の将来の進路選択や働き方に対してどのように考えているかを聞いた。具体的には、「専攻」「学歴」「職業選択」「職業」「社会的地位」「会社の知名度」「勤務地」「ワーク・ライフ・バランス」の8項目について、それぞれ項目内でAとBのどちらの考えに近いのかを4尺度で聞いている（文章中「どちらかと言えば」をAもしくはBに含めて表記）。

「専攻」について「理系に進んでほしい」のか「文系に進んでほしい」のかでは、「理系に進んでほしい」が計70.0%。

「学歴」について「高学歴の方が良い」のか「学歴は気にしない」のかでは、「高学歴の方が良い」が計67.9%。

「職業選択」について「職業選択は子供自身で自由に決めてほしい」のか「職業選択は親の意見も聞いてほしい」のかでは、「職業選択は子供自身で自由に決めてほしい」が計85.2%。

「職業」について「不安定でも、やりたい仕事に就いてほしい」のか「安定した仕事に就いてほしい」のかでは、「安定した仕事に就いてほしい」が計61.2%。

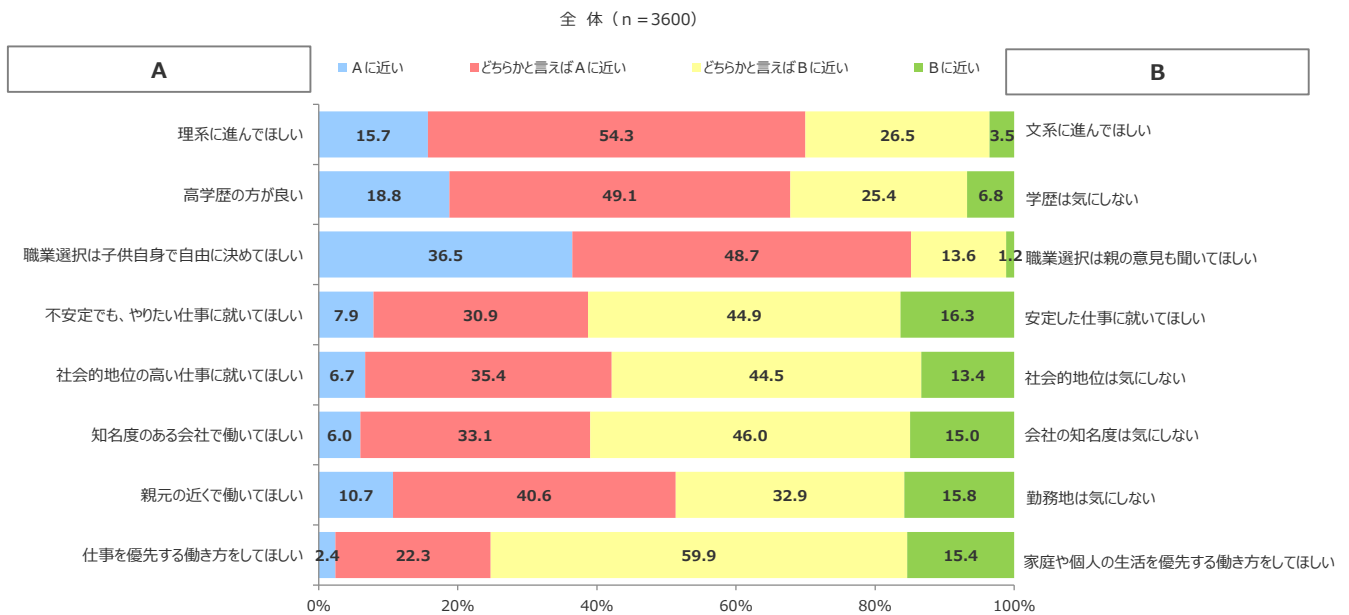
「社会的地位」について「社会的地位の高い仕事に就いてほしい」のか「社会的地位は気にしない」のかでは、「社会的地位は気にしない」が計57.9%。

「会社の知名度」では「知名度のある会社で働いてほしい」のか「会社の知名度は気にしない」のかでは、「会社の知名度は気にしない」が計61.0%。

「勤務地」について「親元の近くで働いてほしい」のか「勤務地は気にしない」のかでは、「親元の近くで働いてほしい」が計51.3%。

「ワーク・ライフ・バランス」について「仕事を優先する働き方をしてほしい」のか「家庭や個人の生活を優先する働き方をしてほしい」のかでは、「家庭や個人の生活を優先する働き方をしてほしい」が計75.3%であった（図7.1）。

【図7】子供の進路選択や働き方に対する考え（全体計）



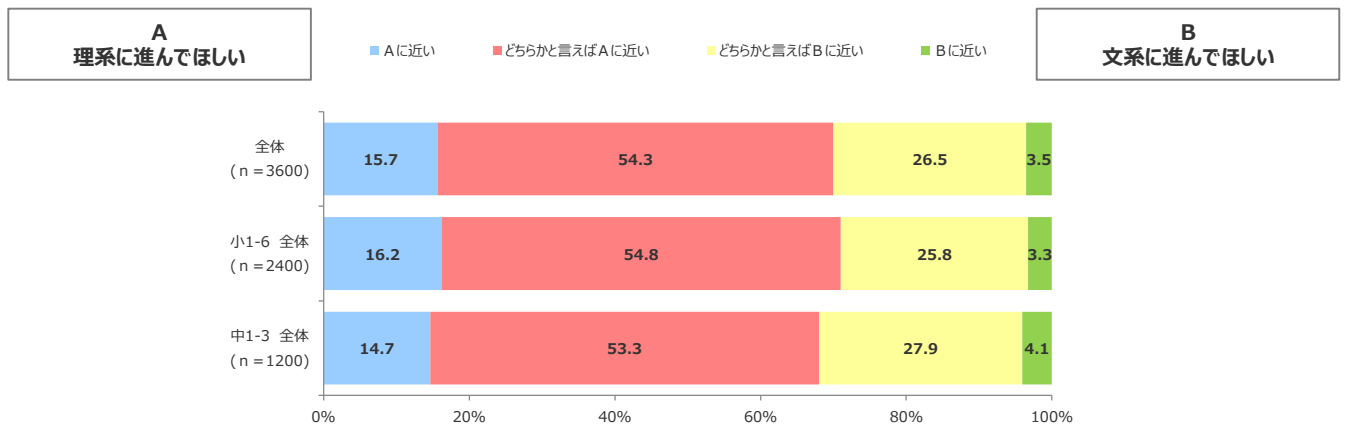
理系か文系か

小学校1年生から中学校3年生の子供がいる男女に、子供の将来の進路選択や働き方に対する考えの一つとして、専攻について「理系に進んでほしい」のか「文系に進んでほしい」のかを聞いたところ、「理系に進んでほしい」15.7%、「どちらかと言えば理系に進んでほしい」54.3%、「どちらかと言えば文系に進んでほしい」26.5%、「文系に進んでほしい」3.5%となった。「どちらかと言えば」の選択肢をそれぞれまとめると、「理系に進んでほしい（どちらかと言えば含む/以下同）」が70.0%、「文系に進んでほしい（どちらかと言えば含む/以下同）」が30.0%である。学校種別でみると、小学生の親の方が、中学生の親と比べて「理系に進んでほしい」の回答割合が高かった（図8.1）。

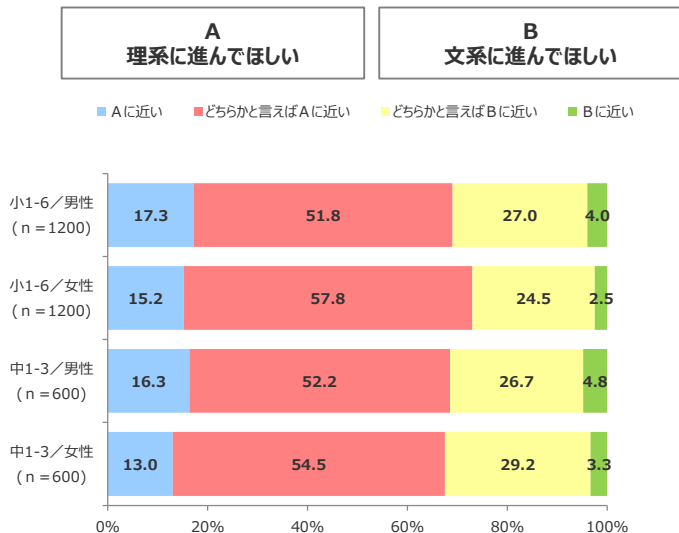
回答者の性別でみると、子供に「理系に進んでほしい」と考えている親は、小学生の母親が73.0%と最も多くなっている（図8.2）。

子供の性別でみると、子供が男子の場合に、「理系に進んでほしい」と考えている親の割合が高い。小学生男子の親が81.9%、次いで中学生男子の親が79.0%となっており、小学生女子の親、中学生女子の親と比べて、それぞれ22ポイント程度割合が高くなっていた（図8.3）。

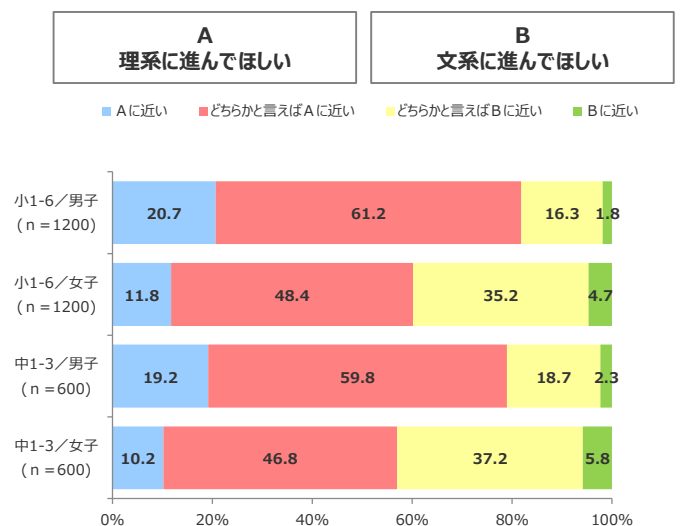
【図8.1】子供の進路選択や働き方に対する考え①理系か文系か



【図8.2】子供の進路選択や働き方に対する考え①理系か文系か：回答者性別



【図8.3】子供の進路選択や働き方に対する考え①理系か文系か：子供の性別



子供の進路選択や働き方に対する考え②学歴について 高学歴を望むか

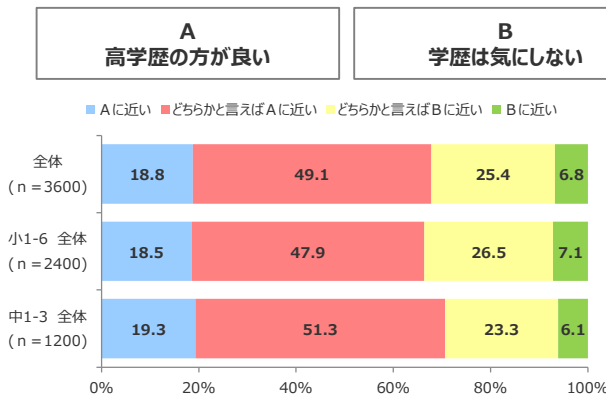
小学校1年生から中学校3年生の子供がいる男女に、子供の将来の進路選択や働き方に対する考えの一つとして、学歴について「高学歴の方が良い」のか「学歴は気にしない」のかを聞いたところ、「高学歴の方が良い」18.8%、「どちらかと言えば高学歴の方が良い」49.1%、「どちらかと言えば学歴は気にしない」25.4%、「学歴は気にしない」6.8%となった。「どちらかと言えば」の選択肢をそれぞれまとめると、「高学歴の方が良い（どちらかと言えば含む/以下同）」が67.9%、「学歴は気にしない（どちらかと言えば含む/以下同）」が32.2%である。学校種別でみると、中学生の親の方が、小学生の親と比べて「高学歴の方が良い」の回答割合が高かった（図9.1）。

回答者の性別でみると、「高学歴の方が良い」と考えている親は、中学生の母親が72.0%と最も多く、次いで中学生の父親が69.4%となっていた（図9.2）。

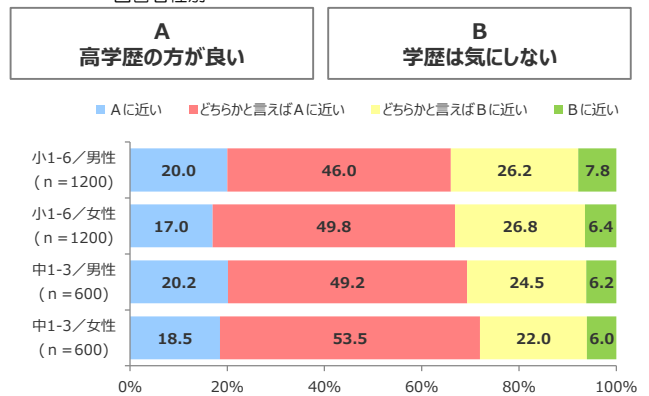
子供の性別でみると、「高学歴の方が良い」と考えている親は、中学生男子の親が75.7%と最も多く、中学生女子の親と比べて10.0ポイント高くなっていた。次いで小学生男子の親が69.5%で、こちらも小学生女子の親と比べると6.1ポイント高く、女子よりも男子に高学歴を望む傾向がある（図9.3）。

さらに回答者の最終学歴別でみると、「高学歴の方が良い」と考えている親は、大卒以上の中学生の親が75.9%と最も多く、大卒未満の中学生の親と比べて10.1ポイント高くなっていた。次いで大卒以上の小学生の親が74.9%で、こちらも大卒未満の小学生の親と比べると18.5ポイント高くなっていた（図9.4）。

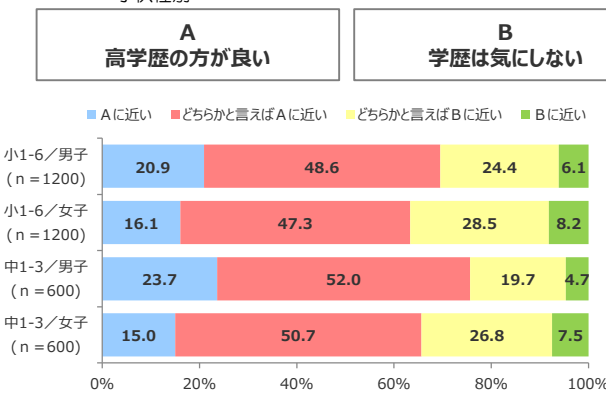
【図9.1】子供の進路選択や働き方に対する考え②高学歴を望むか



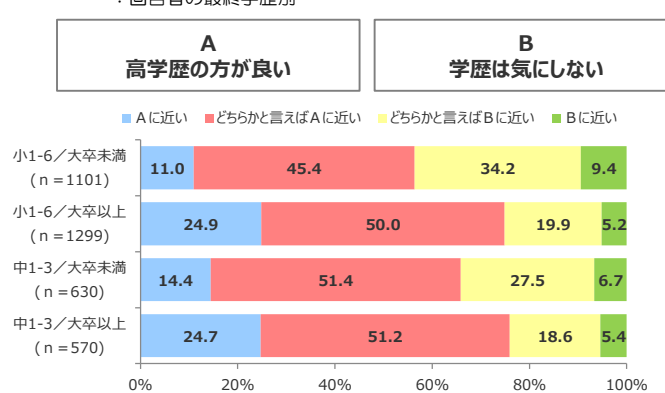
【図9.2】子供の進路選択や働き方に対する考え②高学歴を望むか
：回答者性別



【図9.3】子供の進路選択や働き方に対する考え②高学歴を望むか
：子供性別



【図9.4】子供の進路選択や働き方に対する考え②高学歴を望むか
：回答者の最終学歴別

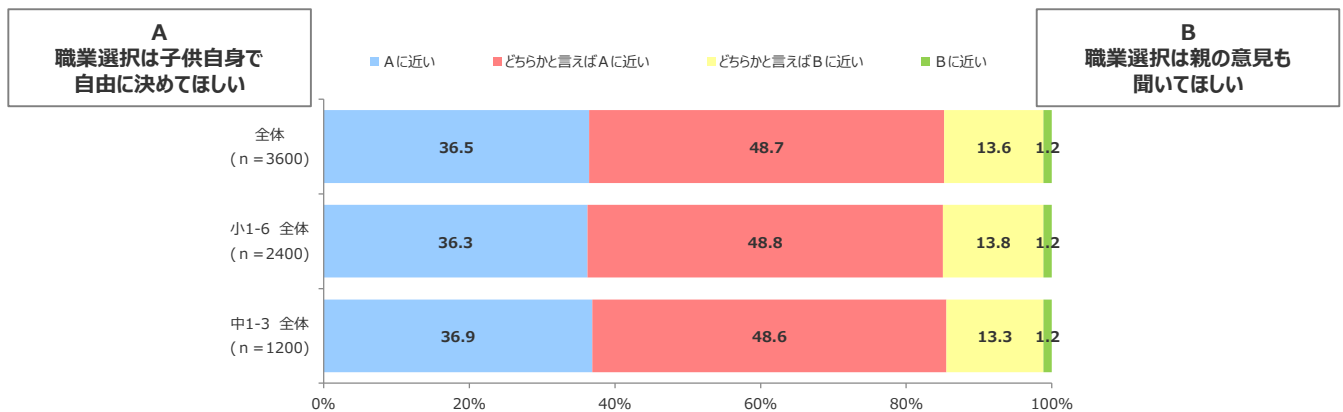


子供の進路選択や働き方に対する考え③職業選択について 職業選択における親の意見への配慮

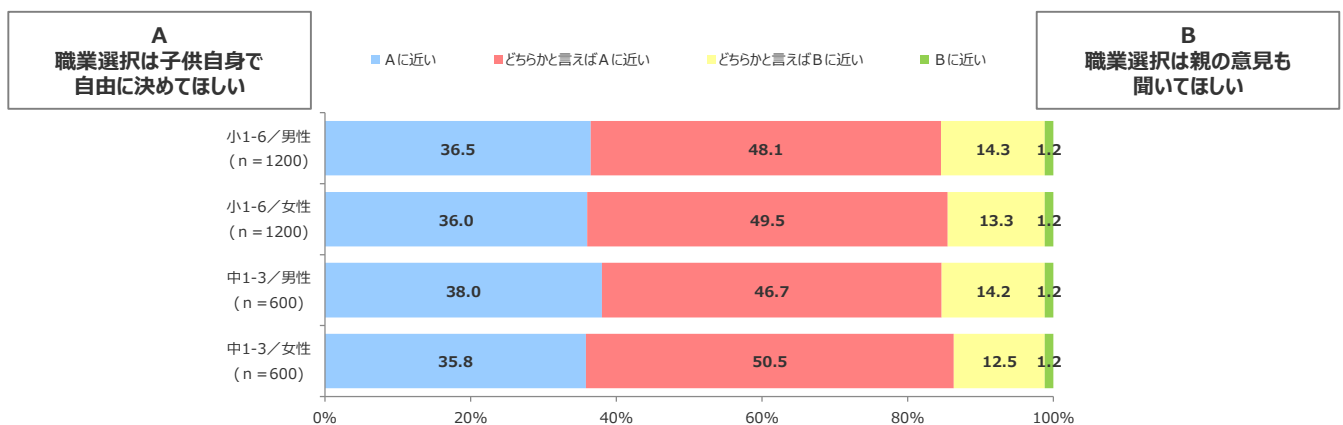
小学校1年生から中学校3年生の子供がいる男女に、子供の将来の進路選択や働き方に対する考えの一つとして、職業選択について「職業選択は子供自身で自由に決めてほしい」のか「職業選択は親の意見も聞いてほしい」のかを聞いたところ、「職業選択は子供自身で自由に決めてほしい」36.5%、「どちらかと言えば職業選択は子供自身で自由に決めてほしい」48.7%、「どちらかと言えば職業選択は親の意見も聞いてほしい」13.6%、「職業選択は親の意見も聞いてほしい」1.2%となった。「どちらかと言えば」の選択肢をそれぞれまとめると、「職業選択は子供自身で自由に決めてほしい」（どちらかと言えば含む/以下同）が85.2%、「職業選択は親の意見も聞いてほしい（どちらかと言えば含む/以下同）」が14.8%である。（図10.1）。

回答者の性別でみても、「職業選択は子供自身で自由に決めてほしい」と考えている親の回答割合にほとんど差がなく、子供の意思を尊重したいというのは、どの親でも共通のようである（図10.2）。

【図10.1】子供の進路選択や働き方に対する考え③職業選択における親の意見への配慮



【図10.2】子供の進路選択や働き方に対する考え③職業選択における親の意見への配慮：回答者性別



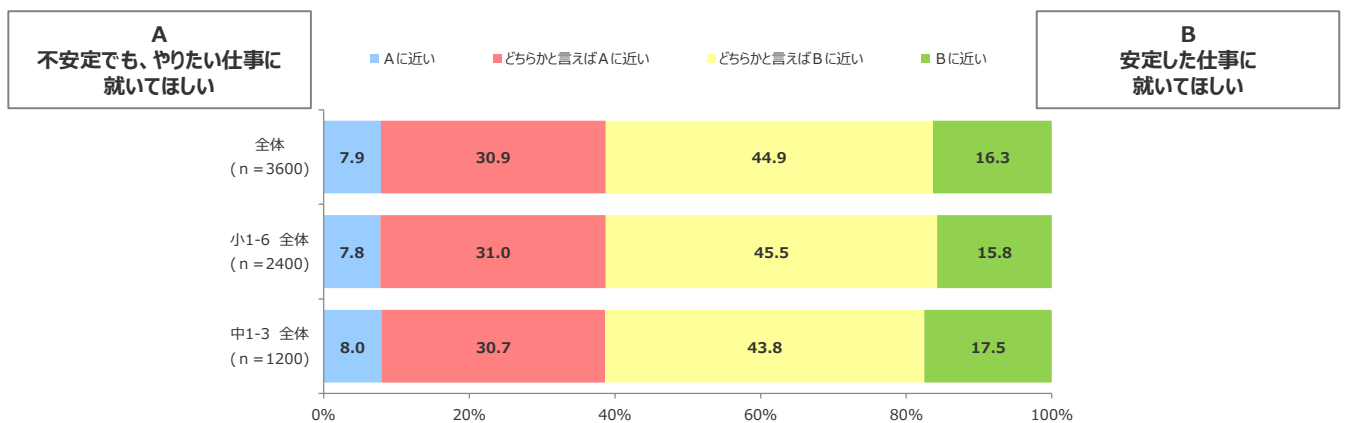
子供の進路選択や働き方に対する考え④職業について やりたい仕事か安定した仕事か

小学校1年生から中学校3年生の子供がいる男女に、子供の将来の進路選択や働き方に対する考えの一つとして、職業について「不安定でも、やりたい仕事に就いてほしい」のか「安定した仕事に就いてほしい」のかを聞いたところ、「不安定でも、やりたい仕事に就いてほしい」7.9%、「どちらかと言えば不安定でも、やりたい仕事に就いてほしい」30.9%、「どちらかと言えば安定した仕事に就いてほしい」44.9%、「安定した仕事に就いてほしい」16.3%となった。「どちらかと言えば」の選択肢をそれぞれまとめると、「不安定でも、やりたい仕事に就いてほしい（どちらかと言えば含む/以下同）」が38.8%、「安定した仕事に就いてほしい（どちらかと言えば含む/以下同）」が61.2%である（図11.1）。

回答者の性別でみると、子供に「安定した仕事に就いてほしい」と考えているのは母親の方が多い。小学生の母親で67.7%、中学生の母親で69.0%となっている。一方、小学生、中学生の父親はともに「安定した仕事に就いてほしい」と考える者が過半数に達しているものの、「不安定でも、やりたい仕事に就いてほしい」と考えている者も半数近くに上った（図11.2）。

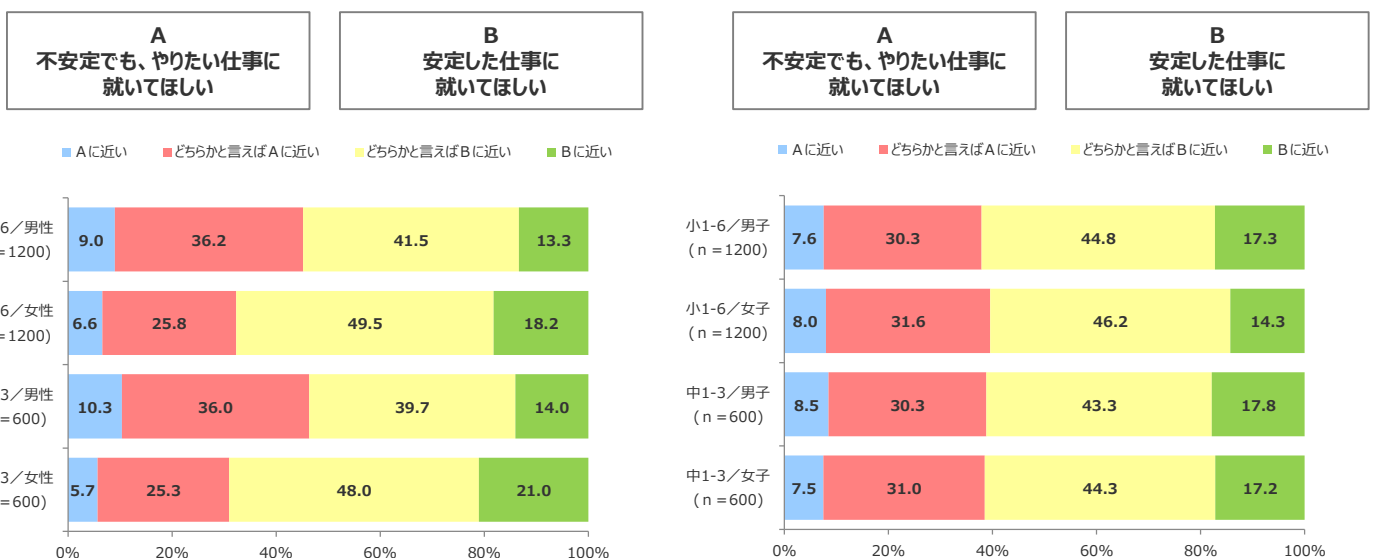
子供の性別でみると、子供に「安定した仕事に就いてほしい」と考えている親の回答割合は、ほとんど差がなかった（図11.3）。

【図11.1】子供の進路選択や働き方に対する考え④やりたい仕事か安定した仕事か



【図11.2】子供の進路選択や働き方に対する考え④
やりたい仕事か安定した仕事か：回答者性別

【図11.3】子供の進路選択や働き方に対する考え④
やりたい仕事か安定した仕事か：子供性別



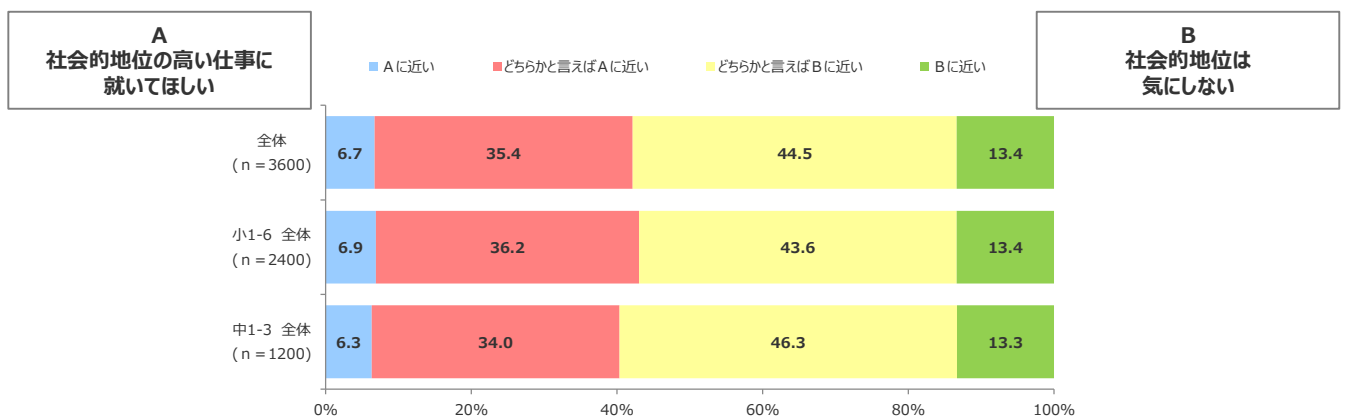
子供の進路選択や働き方に対する考え⑤社会的地位について 社会的地位の高さを気にするか

小学校1年生から中学校3年生の子供がいる男女に、子供の将来の進路選択や働き方に対する考えの一つとして、社会的地位について「社会的地位の高い仕事に就いてほしい」のか「社会的地位は気にしない」のかを聞いたところ、「社会的地位の高い仕事に就いてほしい」6.7%、「どちらかと言えば社会的地位の高い仕事に就いてほしい」35.4%、「どちらかと言えば社会的地位は気にしない」44.5%、「社会的地位は気にしない」13.4%となった。「どちらかと言えば」の選択肢をそれぞれまとめると、「社会的地位の高い仕事に就いてほしい（どちらかと言えば含む/以下同）」が42.1%、「社会的地位は気にしない（どちらかと言えば含む/以下同）」が57.9%である。学校種別でみると、中学生の親の方が、小学生の親よりも「社会的地位は気にしない」の回答割合が高かった（図12.1）。

回答者の性別でみると、「社会的地位は気にしない」と考えている親は、中学生の父親で60.0%と最も多くなっていた（図12.2）。

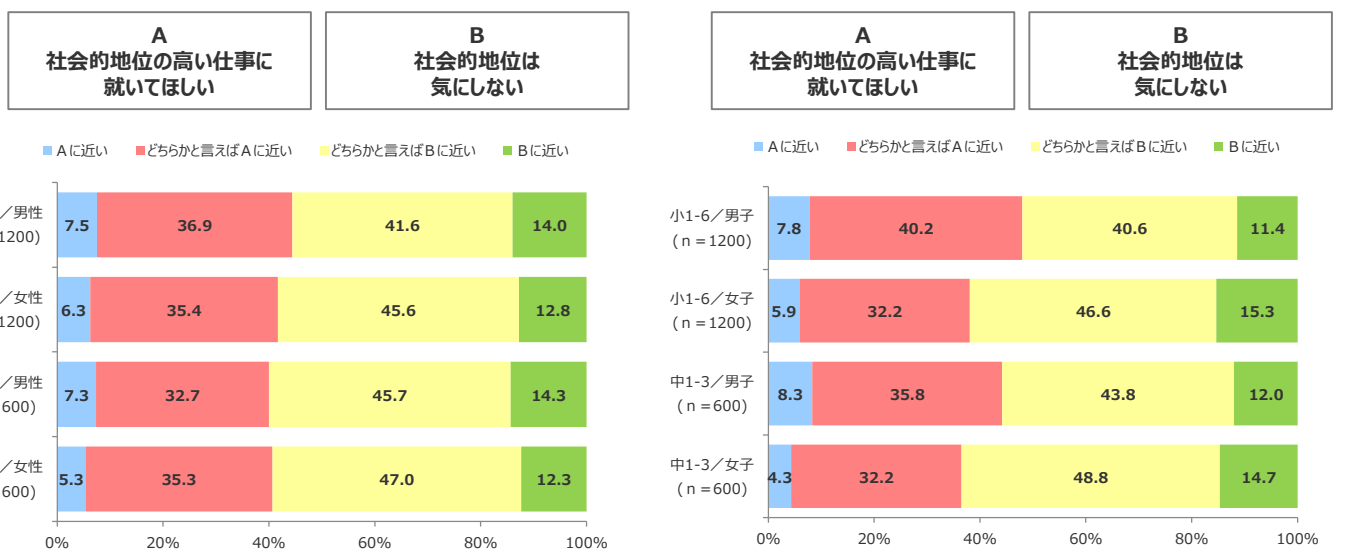
子供の性別でみると、「社会的地位は気にしない」と考えている親は、中学生女子の親が63.5%、次いで小学生女子の親が61.9%となっている。一方、男子は「社会的地位は気にしない」と考える親が過半数に達しているものの、その割合は女子に対するものよりも低く、その分「社会的地位の高い仕事に就いてほしい」と考えている親の割合が高くなっている（図12.3）。

【図12.1】子供の進路選択や働き方に対する考え⑤社会的地位の高さを気にするか



【図12.2】子供の職業選択や働き方に対する考え⑤社会的地位の高さを気にするか
：回答者性別

【図12.3】子供の職業選択や働き方に対する考え⑤社会的地位の高さを気にするか
：子供性別



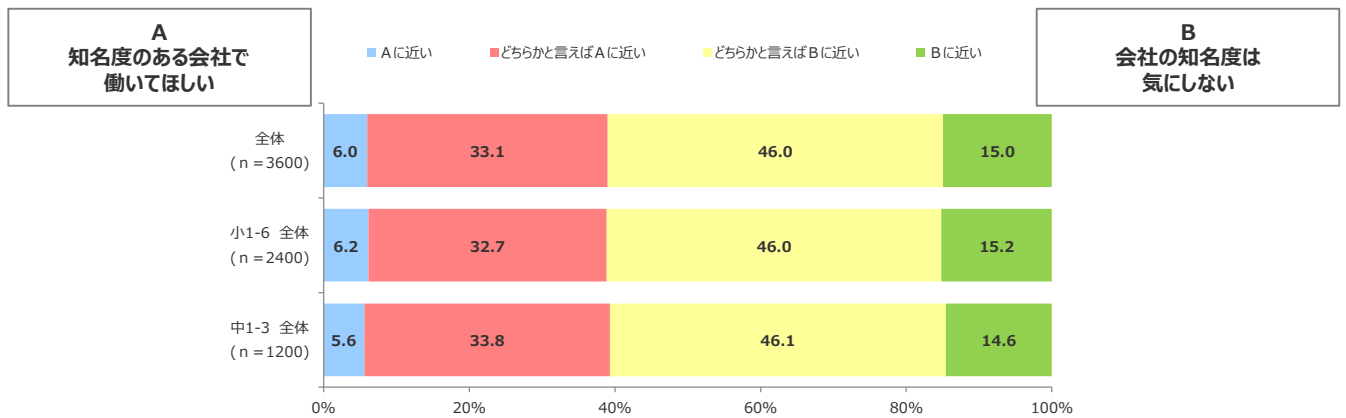
子供の進路選択や働き方に対する考え⑥会社の知名度 会社の知名度を気にするか

小学校1年生から中学校3年生の子供がいる男女に、子供の将来の進路選択や働き方に対する考えの一つとして、会社の知名度について「知名度のある会社で働いてほしい」のか「会社の知名度は気にしない」のかを聞いたところ、「知名度のある会社で働いてほしい」6.0%、「どちらかと言えば知名度のある会社で働いてほしい」33.1%、「どちらかと言えば会社の知名度は気にしない」46.0%、「会社の知名度は気にしない」15.0%となった。「どちらかと言えば」の選択肢をそれぞれまとめると、「知名度のある会社で働いてほしい（どちらかと言えば含む/以下同）」が39.1%、「会社の知名度は気にしない（どちらかと言えば含む/以下同）」が61.0%である（図13.1）。

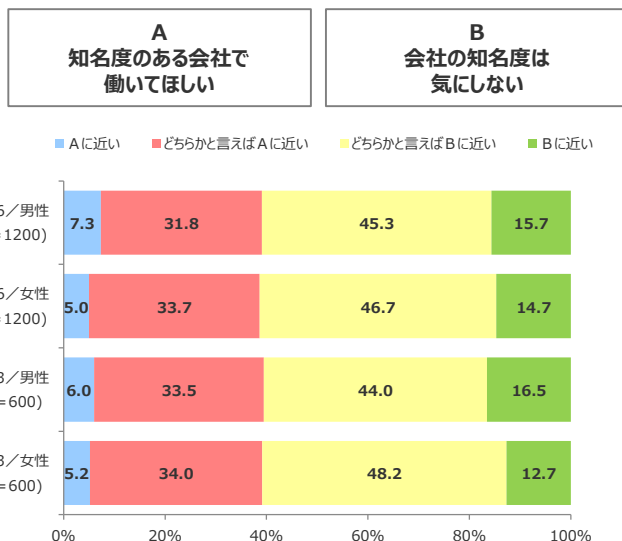
回答者の性別でみると、性別による回答の違いはほとんど見られない（図13.2）。

「6.子供に望む学歴別」でみると、「会社の知名度は気にしない」と考えている親は、大卒未満を望む親の方が回答割合が高くなっている。小学生の親で74.5%、中学生の親で74.4%とほぼ4分の3に上っている。一方、大卒以上を望む親は、「会社の知名度は気にしない」と考える者が過半数に達しているものの、その割合は大卒未満を望む親に対するものよりも低く、その分「知名度のある会社で働いてほしい」と考えている者の割合が高くなっている（図13.3）。

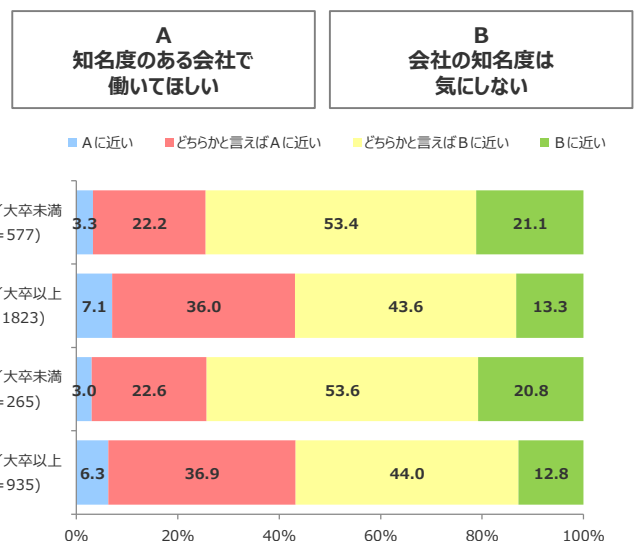
【図13.1】子供の進路選択や働き方に対する考え⑥会社の知名度を気にするか



【図13.2】子供の進路選択や働き方に対する考え⑥会社の知名度を気にするか
：回答者性別



【図13.3】子供の進路選択や働き方に対する考え⑥会社の知名度を気にするか
：子供に望む学歴別



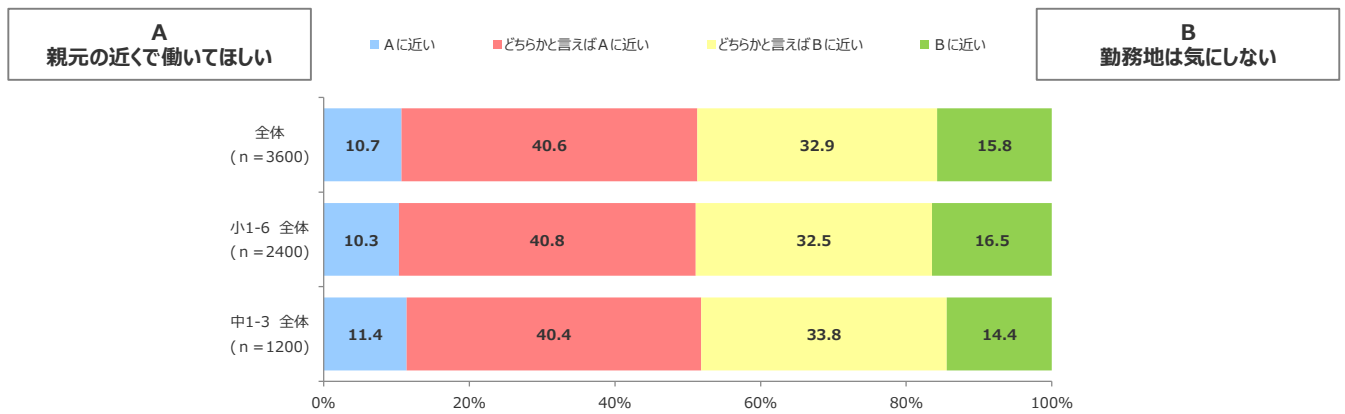
子供の進路選択や働き方に対する考え⑦勤務地について 親元の近くで働いてほしいか

小学校1年生から中学校3年生の子供がいる男女に、子供の将来の進路選択や働き方に対する考えの一つとして、勤務地について「親元の近くで働いてほしい」のか「勤務地は気にしない」のかを聞いたところ、「親元の近くで働いてほしい」10.7%、「どちらかと言えば親元の近くで働いてほしい」40.6%、「どちらかと言えば勤務地は気にしない」32.9%、「勤務地は気にしない」15.8%となった。「どちらかと言えば」の選択肢をそれぞれまとめると、「親元の近くで働いてほしい（どちらかと言えば含む/以下同）」が51.3%、「勤務地は気にしない（どちらかと言えば含む/以下同）」が48.7%である（図14.1）。

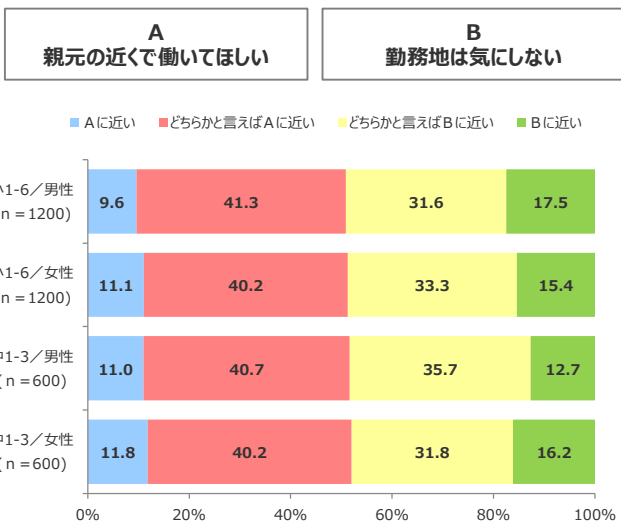
回答者の性別でみると、性別による回答の違いはほとんど見られない（図14.2）。

子供の性別でみると、「親元の近くで働いてほしい」と考えている親は、女子を持つ親の方が回答割合が高くなっている。小学生女子の親で56.1%、中学生女子の親で58.5%だった（図14.3）。

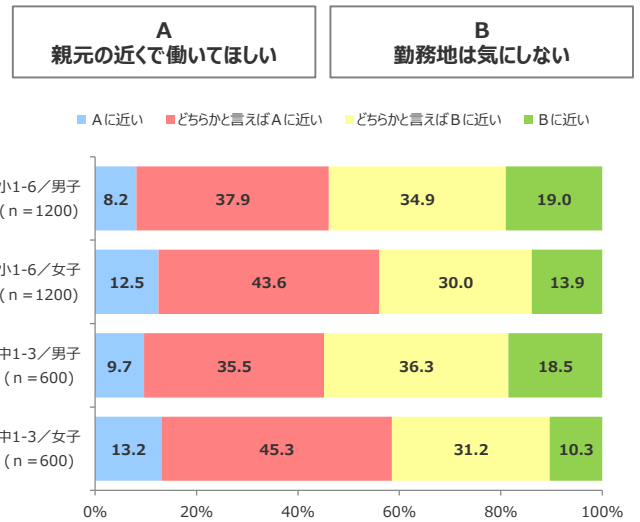
【図14.1】子供の進路選択や働き方に対する考え⑦：親元の近くで働いてほしいか



【図14.2】子供の進路選択や働き方に対する考え⑦親元の近くで働いてほしいか：回答者性別



【図14.3】子供の進路選択や働き方に対する考え⑦親元の近くで働いてほしいか：子供性別



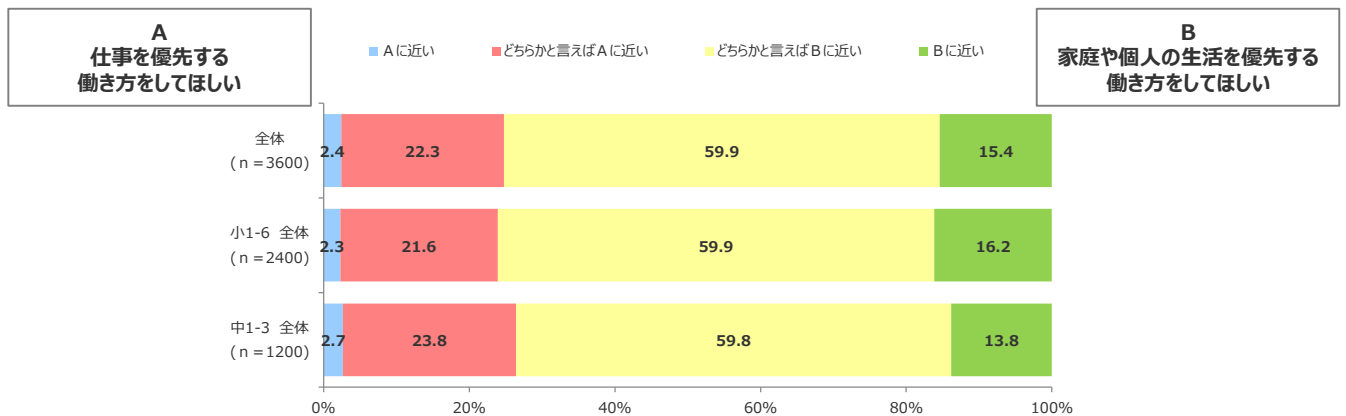
子供の進路選択や働き方に対する考え⑧ワーク・ライフ・バランスについて 仕事優先か家庭優先か

小学校1年生から中学校3年生の子供がいる男女に、子供の将来の進路選択や働き方に対する考えの一つとして、ワーク・ライフ・バランスについて「仕事を優先する働き方をしてほしい」のか「家庭や個人の生活を優先する働き方をしてほしい」のかを聞いたところ、「仕事を優先する働き方をしてほしい」2.4%、「どちらかと言えば仕事を優先する働き方をしてほしい」22.3%、「どちらかと言えば家庭や個人の生活を優先する働き方をしてほしい」59.9%、「家庭や個人の生活を優先する働き方をしてほしい」15.4%となった。「どちらかと言えば」の選択肢をそれぞれまとめると、「仕事を優先する働き方をしてほしい（どちらかと言えば含む／以下同）」が24.7%、「家庭や個人の生活を優先する働き方をしてほしい（どちらかと言えば含む／以下同）」が75.3%である（図15.1）。

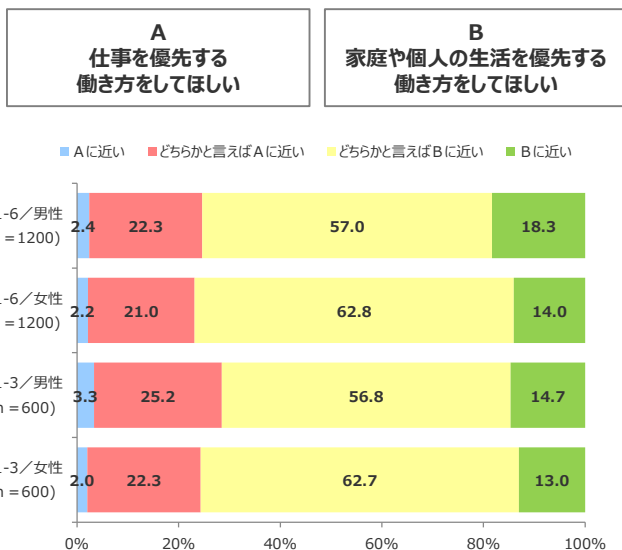
回答者の性別でみると、中学生の父親で「家庭や個人の生活を優先する働き方をしてほしい」の回答割合が他と比べて低くなっている（図15.2）。

子供の性別でみると、「家庭や個人の生活を優先する働き方をしてほしい」と考えている親は、男子の親よりも女子の親の方が割合が高くなっていた（図15.3）。

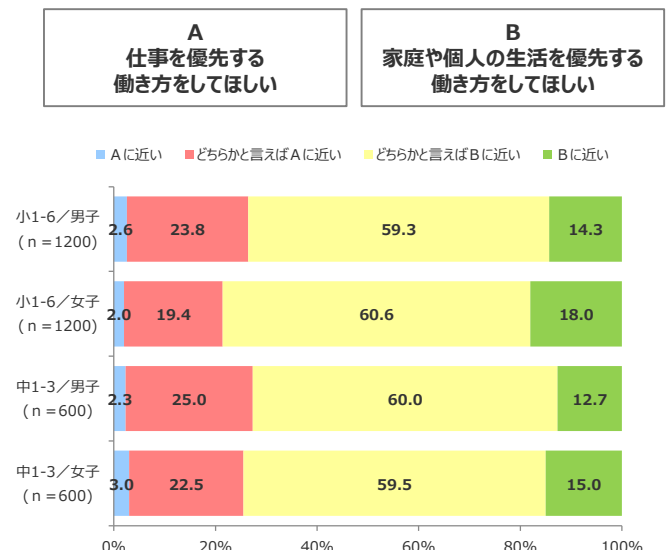
【図15.1】子供の進路選択や働き方に対する考え⑧仕事優先か家庭優先か



【図15.2】子供の進路選択や働き方に対する考え⑧仕事優先か家庭優先か：回答者性別



【図15.3】子供の進路選択や働き方に対する考え⑧仕事優先か家庭優先か：子供性別

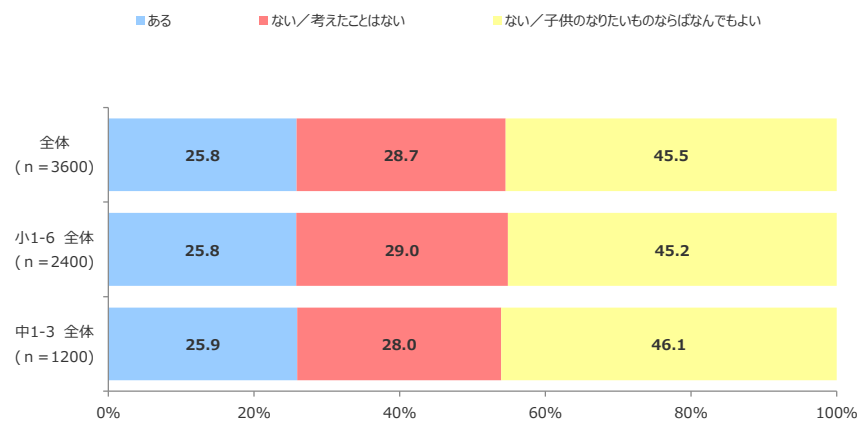


子供に将来なつてほしい職業

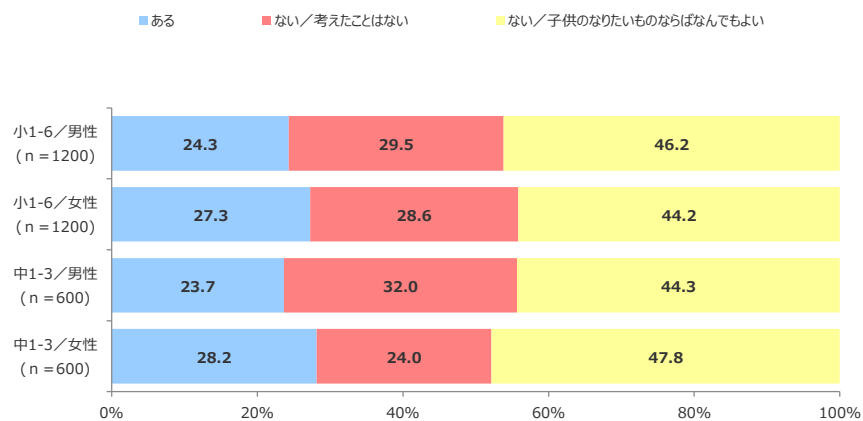
小学校1年生から中学校3年生の子供がいる男女に、子供に将来なつてほしい職業はあるかを聞いた。「ない／子供のなりたいものならばなんでもよい」と考える親が45.5%と半数近く、「ない／考えたことはない」が28.7%で、あわせると「ない」が74.2%を占めていた。一方、「ある」と回答した親も25.8%いた（図16.1）。

回答者の性別でみると、「ある」は学校種別にかかわらず、女性のほうが高い。また、「ない／考えたことはない」は、中学生においては男性32.0%に対し女性24.0%と8ポイント低いことから、母親の立場である女性の方が子供の将来について気にかけていることがうかがえる（図16.2）。

【図16.1】子供に将来なつてほしい職業はあるか



【図16.2】子供に将来なつてほしい職業はあるか：回答者性別



子供に将来なっしてほしい職業が「ある」と回答した親に、職業リストの中からあてはまるものを選んでもらった。順位をみると、小1-6男子の親では1位「医者」、2位「公務員※消防士・警察官・自衛隊等除く」、3位「薬剤師」（表16.1）、小1-6女子の親では1位「看護師」、2位「医者」、3位「薬剤師」となっている（表16.2）。また、中1-3男子の親では1位「医者」、2位「公務員※消防士・警察官・自衛隊等除く」、3位「野球選手」（表16.3）、中1-3女子の親では1位「看護師」、2位「薬剤師」、3位「医者」となっている（表16.4）。総じて収入が高い医療系専門職や公務員など安定的な職業が上位を占めていた。

※「その他」の回答者を除いて集計

【表16.1】子供に将来なっほしい職業：小1-6男子ランキング上位

順位	小1-6男子 (n=244)	(%)
1	医者	18.4
2	公務員 ※消防士・警察官・自衛隊等除く	10.7
3	薬剤師	7.0
4	野球選手 学者・研究者 整備士・機械エンジニア	4.5

【表16.2】子供に将来なっほしい職業：小1-6女子ランキング上位

順位	小1-6女子 (n=263)	(%)
1	看護師	19.4
2	医者	17.9
3	薬剤師	14.4
4	公務員 ※消防士・警察官・自衛隊等除く	8.4
5	教師（小学校、中学校、高等学校）	4.2

【表16.3】子供に将来なっほしい職業：中1-3男子ランキング上位

順位	中1-3男子 (n=108)	(%)
1	医者	25.9
2	公務員 ※消防士・警察官・自衛隊等除く	13.0
3	野球選手	6.5
4	会社員（事務系） ※銀行員・金融関連職除く	5.6
5	教師（小学校、中学校、高等学校） 運転手／車掌（車、バス、電車、新幹線等）	4.6

【表16.4】子供に将来なっほしい職業：中1-3女子ランキング上位

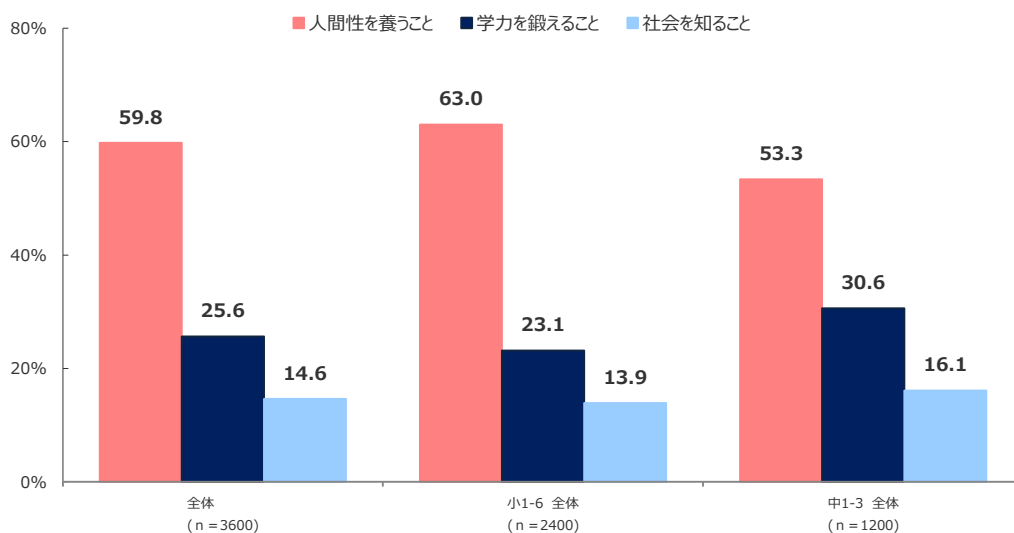
順位	中1-3女子 (n=136)	(%)
1	看護師	22.1
2	薬剤師	16.2
3	医者	14.7
4	公務員 ※消防士・警察官・自衛隊等除く	9.6
5	歯科衛生士・歯科助手 美容師・理容師	2.9

将来のために今身につけるべきこと

小学校1年生から中学校3年生の子供がいる男女に、子供が将来より充実して働くために、「学力を鍛えること」「社会を知ること」「人間性を養うこと」の3項目について、現時点でどれを身につけさせることが最も重要だと考えるかを聞いた。全体計で、「人間性を養うこと」が最も多く59.8%、2番目は「学力を鍛えること」25.6%、3番目が「社会を知ること」14.6%だった。

学校種別にみると、「人間性を養うこと」は小1-6で、「学力を鍛えること」は中1-3で、それぞれ回答割合が高くなっている（図17）。

【図17】 将来のために今身につけるべきこと



将来のために今必要な経験

小学校1年生から中学校3年生の子供がいる男女に、子供が将来より充実して働くために、現時点でどのようなことが必要だと思うかを聞いた。「礼儀を身につけること」が最も多く71.8%、次いで「公共ルール・マナーを守ること」69.9%、「友人と遊ぶこと」68.2%、「学校の勉強をきちんと行うこと」65.7%、「多くの本を読むこと」60.7%、「お手伝いなど家庭で役割を担うこと」56.4%、「お小遣いなどお金の管理をすること」52.2%と続いている。

また、必要だと思うと回答した項目について、それを実際に子供が行っているかどうか聞いた。実際に行っている割合は、「部活動や習い事をすること」が73.0%と最も多く、次いで「友人と遊ぶこと」70.6%、「学習塾などに通うこと」67.6%、「学校の勉強をきちんと行うこと」67.2%、「公共ルール・マナーを守ること」が63.8%となった。

将来より充実して働くために、現時点で最も必要だと思うことは「礼儀を身につけること」であったが、それを実際に行っているとの回答はそのうちの5割で、学校種別でも傾向は変わらない。

また、「いろいろな職業にふれる機会を得ること」は、“子供が将来より充実して働くために”に直結する項目の一つだが、必要だと思うと回答した割合が39.4%と4割に対して、それを実際に行っている割合は13.2%と1割強で最も低くなっていた。必要だと思いつつも、機会に恵まれないため、実施率が低くなっているのかもしれない（表18）。

【表18】 将来のために今必要な経験

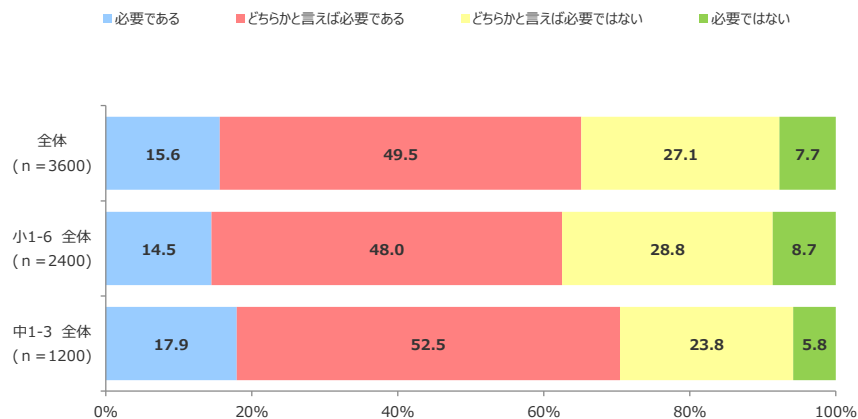
		礼儀を身につけること	公共ルール・マナーを守ること	友人と遊ぶこと	学校の勉強をきちんと行うこと	多くの本を読むこと	お手伝いなど家庭で役割を担うこと	お小遣いなどお金の管理をすること	部活動や習い事をすること	自然や動物とふれあうこと	いろいろな職業にふれる機会を得ること	外国語を学ぶこと	芸術や音楽にふれること	親族以外の異世代と交流すること	新聞を読むこと	外国人と交流すること	ペットや植物の世話をすること	学習塾などに通うこと	参加すること	コミュニティ・ボランティア活動に	インターネット・SNSを活用すること	プログラミングを学ぶこと	現時点で必要だと思うことはない	平均回答個数(個)	
		n=30以上で																							
		 項目内で1位 項目内で2位 項目内で3位																							
		(%)																							
必要だと思うこと 全体 (n=3600)		71.8	69.9	68.2	65.7	60.7	56.4	52.2	48.5	43.9	39.4	39.0	37.0	34.5	29.8	26.6	26.4	24.4	23.4	20.0	18.5	4.0	8.9		
	実際にしている割合 (n=3455)	51.7	63.8	70.6	67.2	47.3	55.9	46.5	73.0	46.5	13.2	43.6	46.2	36.2	19.5	23.7	50.2	67.6	21.7	46.2	15.4	—	—		
小1-6	必要だと思うこと (n=2400)	71.3	70.4	69.3	65.0	61.3	57.5	50.8	44.8	47.9	38.1	37.6	37.5	34.7	26.8	27.0	27.6	21.3	23.4	17.6	19.7	4.3	8.9		
	実際にしている割合 (n=2298)	51.9	65.0	71.9	69.8	50.5	57.8	41.7	67.3	48.1	13.2	43.7	46.3	37.9	17.9	24.7	49.9	61.6	21.9	35.0	15.9	—	—		
中1-3	必要だと思うこと (n=1200)	72.8	68.8	66.0	67.0	59.5	54.3	55.1	55.8	35.8	42.0	41.8	36.1	34.2	35.7	25.6	24.1	30.8	23.5	24.7	16.2	3.6	9.0		
	実際にしている割合 (n=1157)	51.3	61.3	67.9	62.1	40.8	51.9	55.4	82.2	42.1	13.1	43.2	46.0	32.7	22.0	21.8	50.9	75.9	21.3	62.2	14.4	—	—		

小学校1年生から中学校3年生の子供がいる男女に、子供が将来より充実して働くために、現時点で子供に対するキャリア教育は必要だと思うかを聞いたところ、「必要である」15.6%、「どちらかと言えば必要である」49.5%、「どちらかと言えば必要ではない」27.1%、「必要ではない」7.7%となった。「どちらかと言えば」の選択肢をそれぞれまとめると、「必要である（どちらかと言えば含む/以下同）」が65.1%、「必要ではない（どちらかと言えば含む/以下同）」が34.8%である。学校種別でみると、中学生の親の方が、小学生の親よりもキャリア教育が「必要である」の回答割合が7.9ポイント高くなっている（図19.1）。

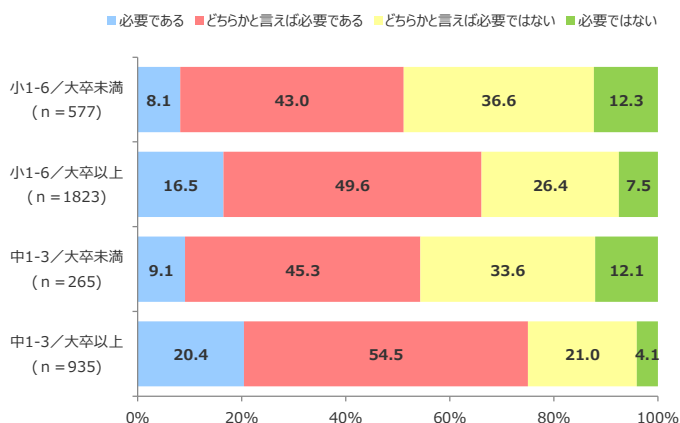
「6.子供に望む学歴別」でみると、キャリア教育が「必要である」の回答割合が高くなっているのは、大卒以上の学歴を望む場合で、小学生の親で66.1%、中学生の親で74.9%となった（図19.2）。

また、「16.子供に将来なってほしい職業」の有無別では、なってほしい職業がある親の方が、ない親よりもキャリア教育が「必要である」の回答割合が高くなっていた。具体的には、小学生の子供の親で79.0%、中学生の親で84.9%である（図19.3）。大学進学やなってほしい職業など、子供に望むものがある親は、小中学生のうちからキャリア教育の必要性を感じていることがうかがえる。

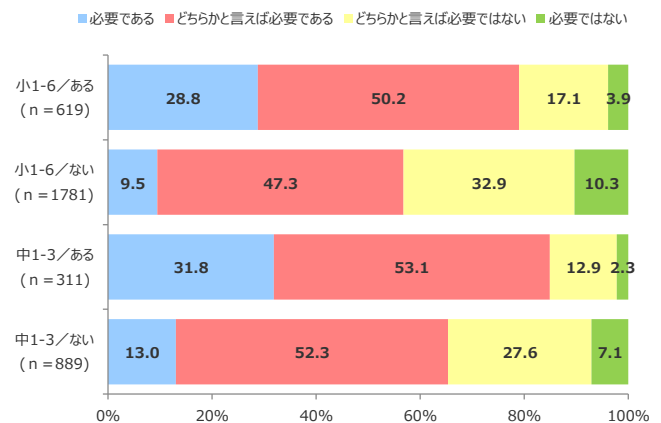
【図19.1】現時点でのキャリア教育の必要性



【図19.2】現時点でのキャリア教育の必要性
：子供に望む学歴別



【図19.3】現時点でのキャリア教育の必要性
：子供に将来なってほしい職業があるか別



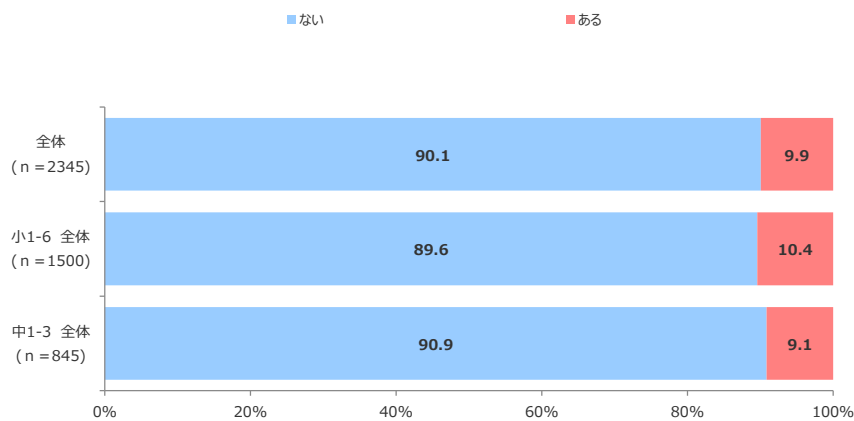
家庭で行っているキャリア教育

子供が将来より充実して働くために、現時点で子供に対するキャリア教育は「必要である」と回答した者に、キャリア教育として家庭で意識して行っていることはあるかを聞いた。「ある」という回答は、全体計で9.9%、小学生の親で10.4%、中学生の親で9.1%だった（図20.1）。

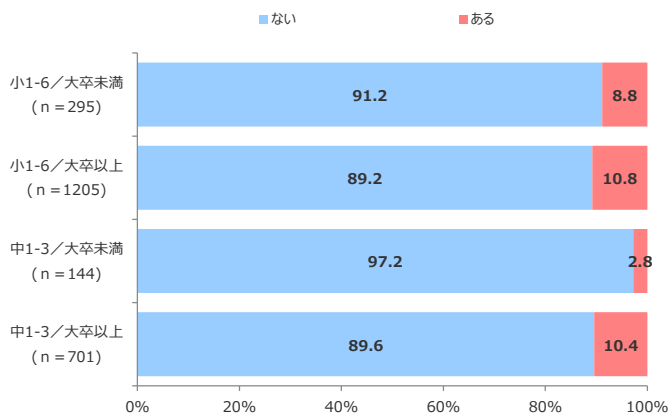
「6.子供に望む学歴別」でみると、家庭で行っているキャリア教育が「ある」割合は、大卒以上の学歴を望む親で高く、小学生の親で10.8%、中学生の親で10.4%となっていた（図20.2）。

また、「16.子供に将来なってもらいたい職業」の有無別では、なってもらいたい職業がある親の方が、ない親よりもキャリア教育として家庭で意識して行っていることが「ある」回答割合が高くなっていた。具体的には、小学生の親で15.5%、中学生の親で15.2%である（図20.3）。

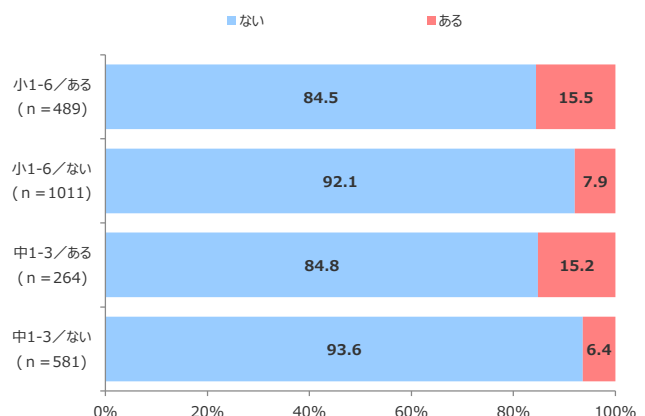
【図20.1】 キャリア教育として、家庭で意識して行っていることはあるか



【図20.2】 キャリア教育として、家庭で意識して行っていることはあるか
：子供に望む学歴別



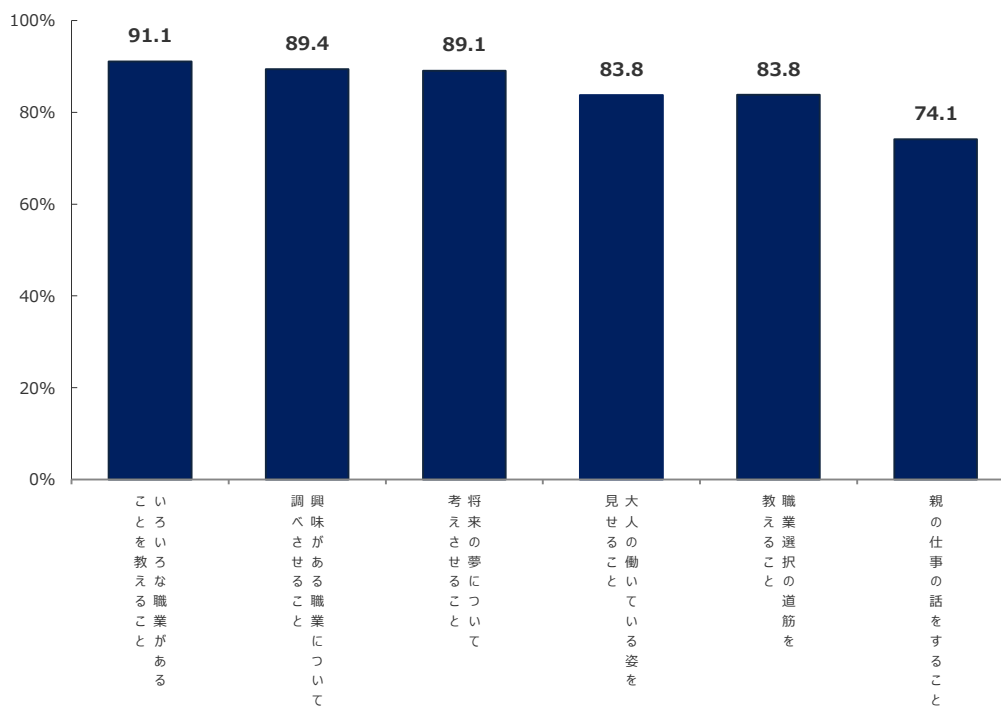
【図20.3】 キャリア教育として、家庭で意識して行っていることはあるか
：子供に将来なってもらいたい職業があるか別



キャリア教育として有効なこと

小学校1年生から中学校3年生の子供がいる男女に、子供が将来より充実して働くために、キャリア教育として以下の6項目は有効だと思うかを聞いた。「有効である（どちらかと言えばを含む）」との回答は、「いろいろな職業があることを教えること」が91.1%と最も多く、次いで「興味がある職業について調べさせること」89.4%、「将来の夢について考えさせること」89.1%、「大人の働いている姿を見せること」83.8%、「職業選択の道筋を教えること」83.8%、「親の仕事の話をする事」74.1%の順であった（図21.1）。

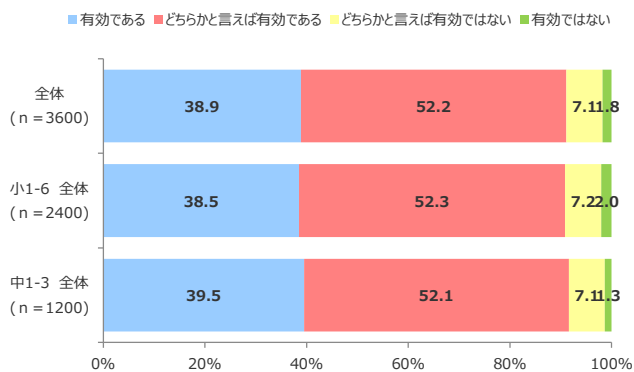
【図21.1】キャリア教育として有効なこと：有効度順



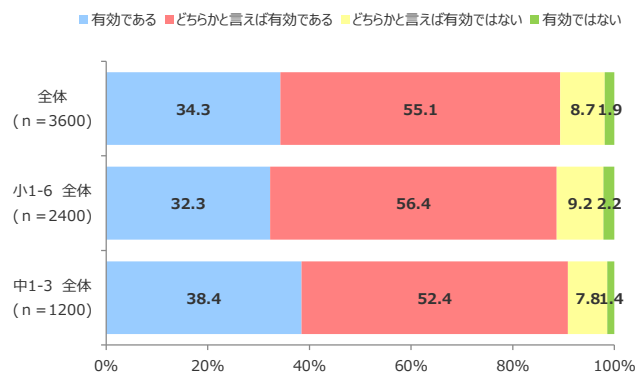
キャリア教育として有効だと思うことの6項目について学校種別にみたところ、小学生の親も中学生の親も「どちらかと言えば」を含めた「有効である」では、ほとんど回答割合に差がなかった。

「どちらかと言えば」を含めない「有効である」だけでみると、すべての項目で小学生の親よりも中学生の親の方が回答割合が高くなっている。その中でも「興味がある職業について調べさせること」「将来の夢について考えさせること」の2項目はやや差が出ており、それぞれ6.1ポイント、4.6ポイント、小学生の親よりも中学生の親の回答割合が高かった（図21.2～図21.7）。

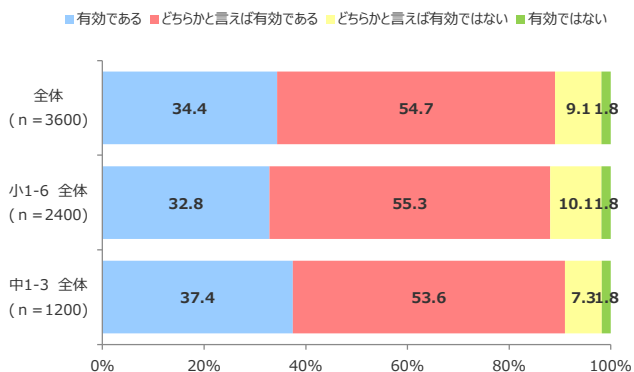
【図21.2】 いろいろな職業があることを教えること



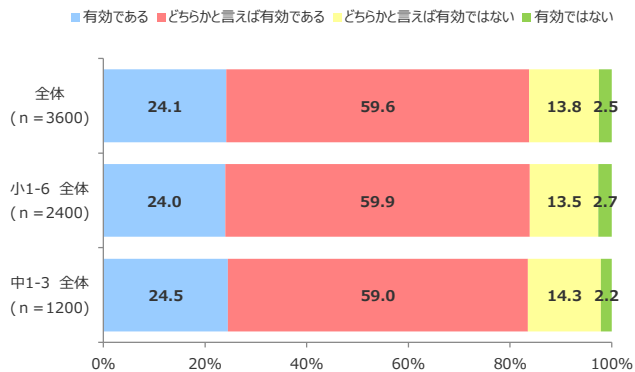
【図21.3】 興味がある職業について調べさせること



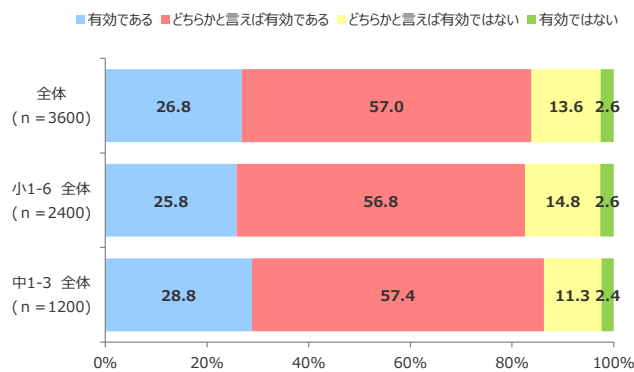
【図21.4】 将来の夢について考えさせること



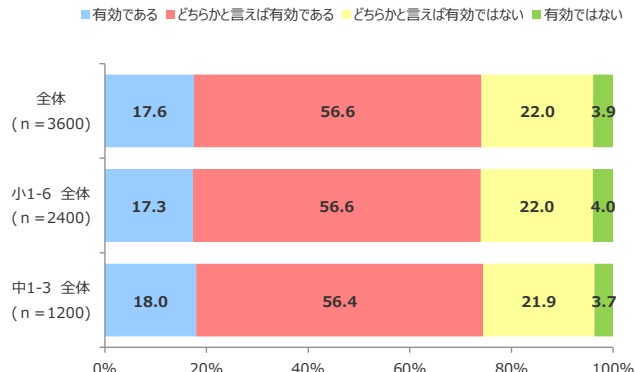
【図21.5】 大人の働いている姿を見せること



【図21.6】 職業選択の道筋を教えること



【図21.7】 親の仕事の話をすること

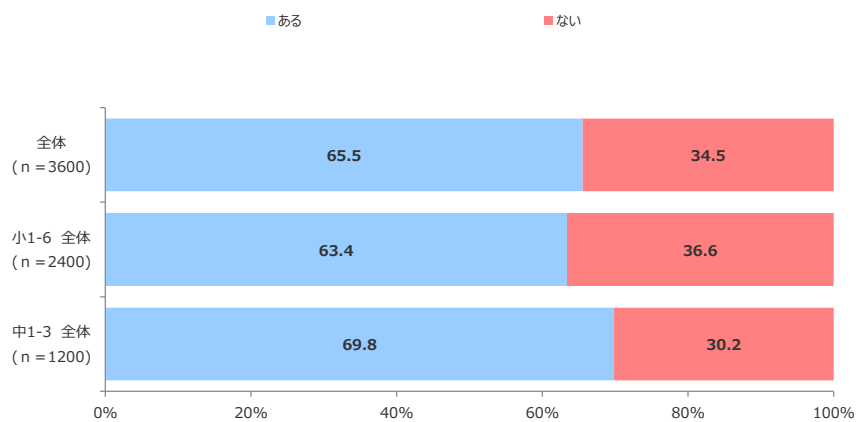


子供の将来に関して不安なこと

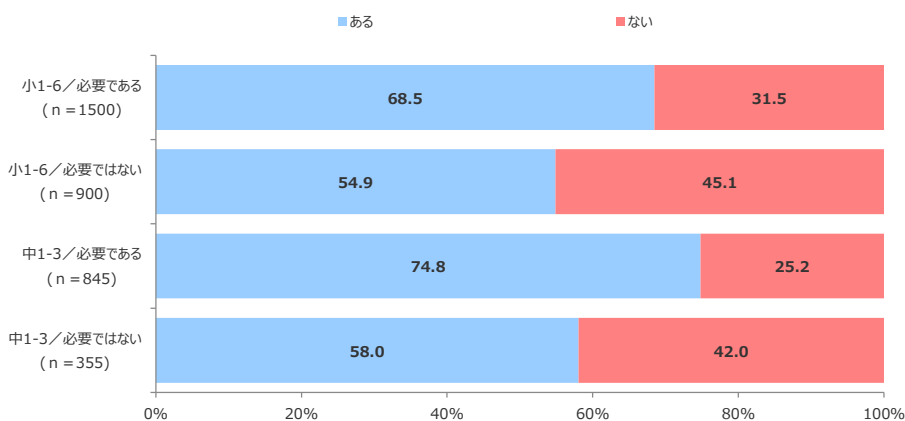
小学校1年生から中学校3年生の子供がいる男女に、子供の将来に関して気になったり不安に思うことがあるかを聞いたところ、全体計では「ある」が65.5%、「ない」が34.5%となった。学校種別でみると、中学生の親の方が、小学生の親より子供の将来に関して不安なことが「ある」の回答割合が6.4ポイント高くなっている（図22.1）。

これを「19.現時点でのキャリア教育の必要性」との関係でみると、キャリア教育が「必要である」と回答した者ほど、子供の将来に関して不安が「ある」の回答割合が高くなっている。具体的には、小学生の親が68.5%、中学生の親が74.8%で、同じ学校種別でキャリア教育が「必要ではない」と回答した者と比べると、それぞれ13.6ポイント、16.8ポイント高い。また、キャリア教育は「必要ではない」と回答した親でも、過半数が子供の将来に関して不安が「ある」と回答していた（図22.2）。

【図22.1】子供の将来に関して不安なこと



【図22.2】子供の将来で不安なこと：現時点でのキャリア教育の必要性別



【子供の将来の気になることや不安など／自由回答の一部】

- まだ将来への目標や夢が明確ではないので、何かしらの目標をもってもらいたい。(43歳父親／小5男子)
- 今の時点で、なりたい職業が決まっていないこと。目標がないから、毎日がなんとなく過ぎていて、進学先の学校も決まらない。受験をもっと真剣に考えてほしい。(52歳母親／中2男子)
- 夢をかなえるためには、今必要な勉強があることを理解してほしい。(45歳母親／中3女子)
- 急変する社会情勢や外国人労働者といったボーダレスな環境で生き残っていけるかどうか。(47歳父親／小6男子)
- 子供が大人になった時には今よりも高齢化社会になっていると思うので、若者が年寄りの面倒を見なきゃいけないような、若者が割を食うような世の中になっていないか不安。(39歳父親／小4男子)
- 子供が大人になった時に、今現在子供が希望する職業が存在するかどうか。(49歳母親／中2女子)
- AIの普及や終身雇用制ではなくなってきて、どんな仕事に就けば生き残っていけるかを模索している。親としてどのような助言が適切か気になる。(39歳母親／小4男子)
- もっとAIの活用が増えて、人がやることがなくなっていき、今ある職業がなくなり、もっと違う仕事をできる人が必要になってくると思うが、未来にどんな仕事や能力が必要とされるようになるのか、想像ができなくて不安に思う。(41歳母親／小2女子)
- どんな仕事が将来もあって、どんな仕事が将来なくなっていくのが定かでないのでキャリア教育に困る。今はいろんな仕事が世の中にはあるんだということを知っておいてほしい。(47歳父親／小3女子)
- 我が子が大人になった時の社会がどのようになっているのか想像がつかないことが不安です。(35歳母親／小2女子)
- 先行きをあまり気にしても仕方がないが、地震や社会の在り方など、個人というより取り巻く環境の変化の方が気になる。(51歳父親／小4女子)
- 努力嫌い、根性なし、諦めが早い、嫌なことから逃げるばかり考えているなどから、仕事が長続きしないのでは？と不安である。(49歳母親／中2女子)
- 今より不景気になっていると思うし、子供がお金に困った時にサポート出来ない可能性もあるので、お金を稼ぐ術・知識を身につけておいてほしいと思う。(36歳母親／小2女子)
- 今後格差が更に広がるであろう世の中で、自分の子供がしっかりと自立した生活が送れるようになるか不安である。それだけの収入が得られる仕事に就けるのか、不安しかない。(45歳父親／小5男子)
- 発達障害があるが、障害者手帳は持っていないので、健常者と同じ条件で働かなければならず能力的に厳しいと思う。(40歳母親／小5男子)
- 本当にやりたいことを経済的理由で諦めようとするのではないかということ。(42歳母親／小6男子)
- 将来、教員になりたいとのことで、親も賛成で子供の今の学力ならば充分可能ですが、母子家庭のため、金銭面に不安がある。(51歳母親／中3女子)
- 小学校の高学年が将来なりたい職業に「ユーチューバー」を書く子がとても多いです。ネット社会についていくことは必要だと思いますが、ネット社会に踊らされてしまわないか不安に思います。(38歳母親／小2男子)
- ネットで見たことを鵜呑みにしているのを見ていると、物事の考え方や捉え方が、自分が子供だった頃に比べると、とても浅はかで、このまま成長させてはいけないと思うことが多い。(41歳母親／小5男子)
- 子供が望む学校への進学、また、仕事に就くことができるのか。そのために必要なこと(塾、習い事)を私が理解していないし、経済的にもすべてを満たしてあげることはできないので、そのことで将来的にマイナスになってしまわないか不安。(47歳母親／中3女子)
- いい仕事に就くためには良い教育を受けてより良い大学を卒業することも大切だと思うが、これからの時代はそれだけで評価されることはなく、それまでの人生で培ってきたスキルや教養などが総合的に問われるようになってくると思う。そのため、学業以外の部分でどのような経験をさせてやるか、どのような選択肢を用意してあげられるかという、親としての方向性が定まらないことが不安です。(43歳母親／中1男子)

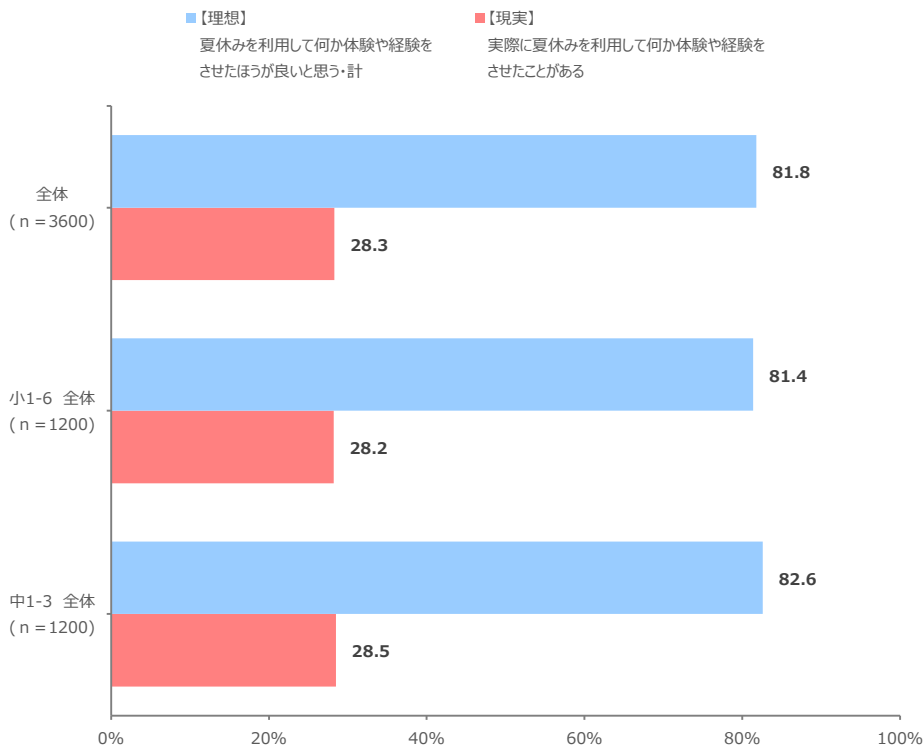
子供が将来より充実して働くために 夏休みに何か経験させたほうが良いと思うか

小学校1年生から中学校3年生の子供がいる男女に、子供が将来より充実して働くために、夏休みを利用して何か体験や経験をさせたほうが良いと思うかを聞いた。「夏休みを利用して何か体験や経験をさせたほうが良いと思う・計（どちらかと言えばを含む）」という回答は、全体計で81.8%、学校種別でも、小学生の親で81.4%、中学生の親で82.6%と8割を超えていた。

一方、子供が将来より充実して働くために、実際に夏休みを利用して何か体験や経験をさせたことがあるかを聞いたところ、「ある」は全体計で28.3%だった。学校種別でも、小学生の親で28.2%、中学生の親で28.5%とあまり傾向は変わらない（図23）。

子供が将来より充実して働くために、夏休みを利用して何か体験や経験をさせたほうが良いと考えつつも、実際に子供に体験や経験をさせた親は3割程度しかいなかった。

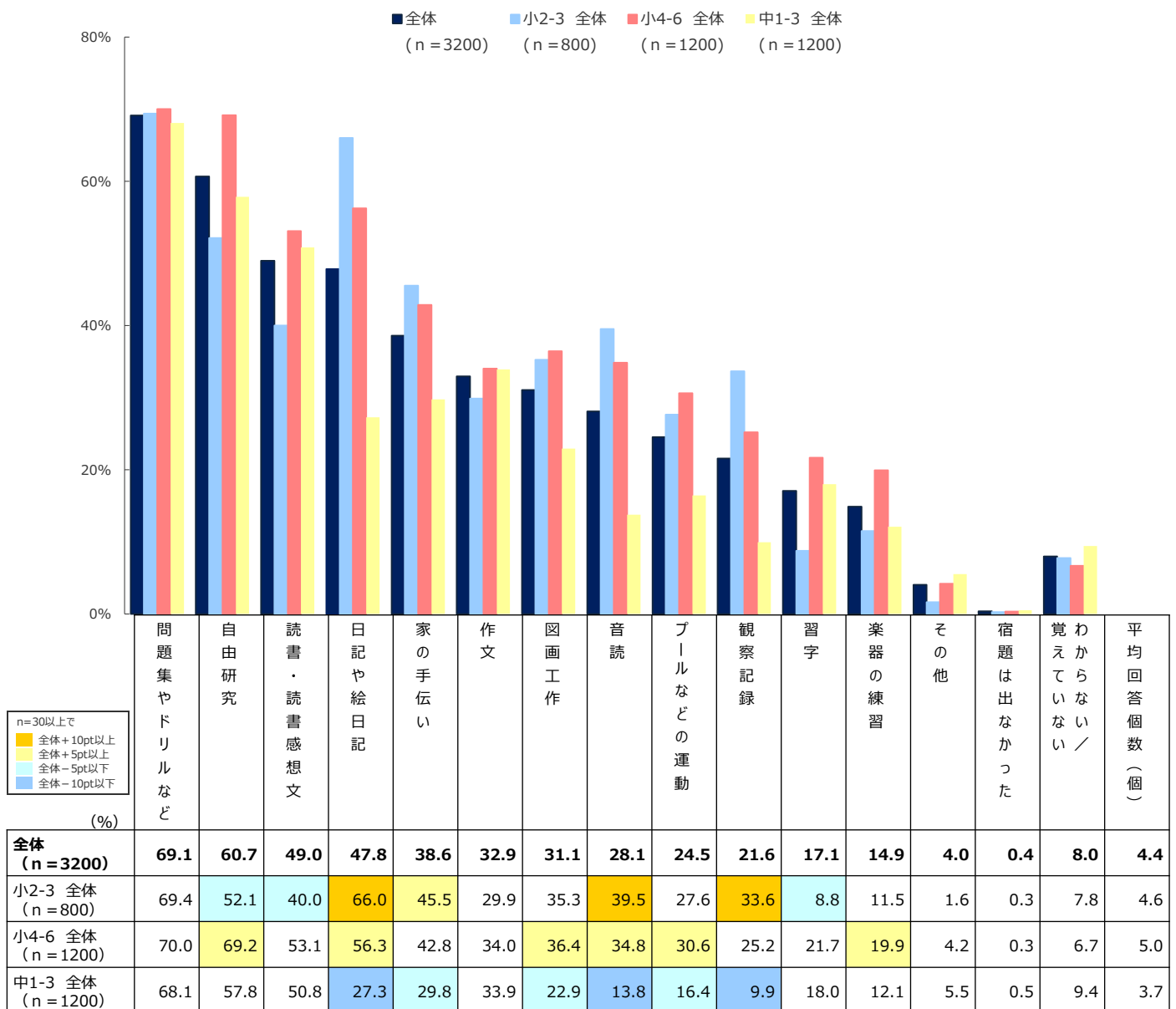
【図23】子供が将来より充実して働くために夏休みに何か経験させたほうが良いと思うか



夏休みに出された宿題

小学校2年生から中学校3年生の子供がいる男女に、昨年の夏休み、子供にどのような宿題が出されたのかを聞いた。全体計では、「問題集やドリルなど」が最も多く69.1%、次いで「自由研究」60.7%、「読書・読書感想文」49.0%、「日記や絵日記」47.8%、「家の手伝い」38.6%、「作文」32.9%と続いている。学齢別に出された宿題を見てみると、「問題集やドリルなど」はどの学齢でも最も多くなっていた。それを除くと、「小2-3」は「日記や絵日記（66.0%）」「自由研究（52.1%）」「家の手伝い（45.5%）」の順、「小4-6」は「自由研究（69.2%）」「日記や絵日記（56.3%）」「読書・読書感想文（53.1%）」の順、「中1-3」は「自由研究（57.8%）」「読書・読書感想文（50.8%）」「作文（33.9%）」の順だった。「日記や絵日記」「家の手伝い」「音読」「観察記録」は、学齢が低くなるほど宿題に出されている割合が高い。また、学校から出された宿題の種類が最も多いのは「小4-6」で5.0種類、全体計では4.4種類だった（図24）。

【図24】夏休みに出された宿題



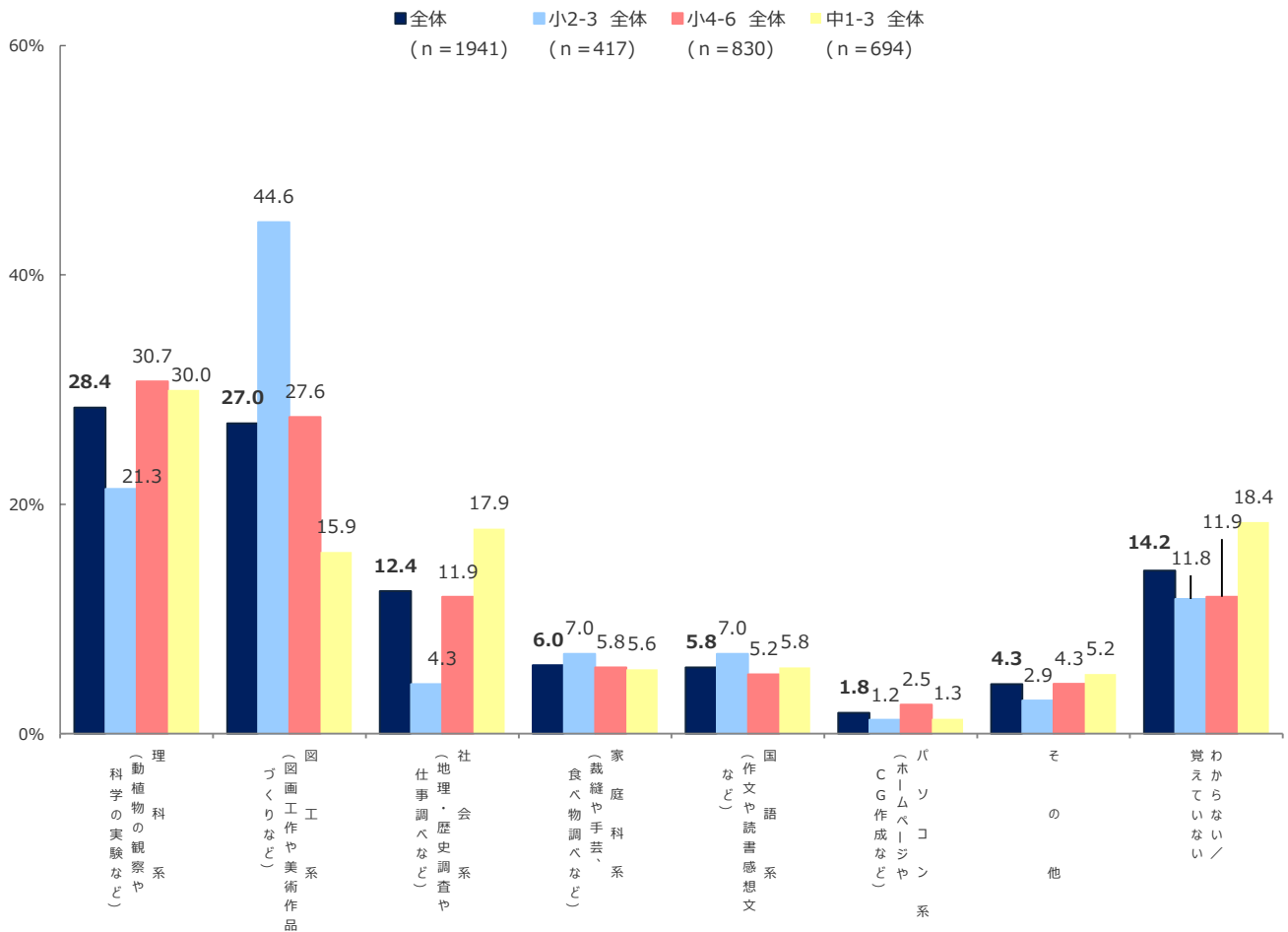
自由研究のテーマ

昨年の夏休みの宿題に自由研究が出された小学校2年生から中学校3年生の子供がいる男女に、子供が取り組んだ自由研究のテーマを聞いた。

全体計では、「理科系（動植物の観察や科学の実験など）」が最も多く28.4%、僅差で「図工系（図画工作や美術作品づくりなど）」が27.0%、離れて「社会系（地理・歴史調査や仕事調べなど）」が12.4%となっている。

学齢別にみると、「図工系」は学齢が低いほどテーマとして選んだ割合が高く、「社会系」は学齢が高いほどテーマとして選んだ割合が高くなっている（図25）。

【図25】自由研究のテーマ

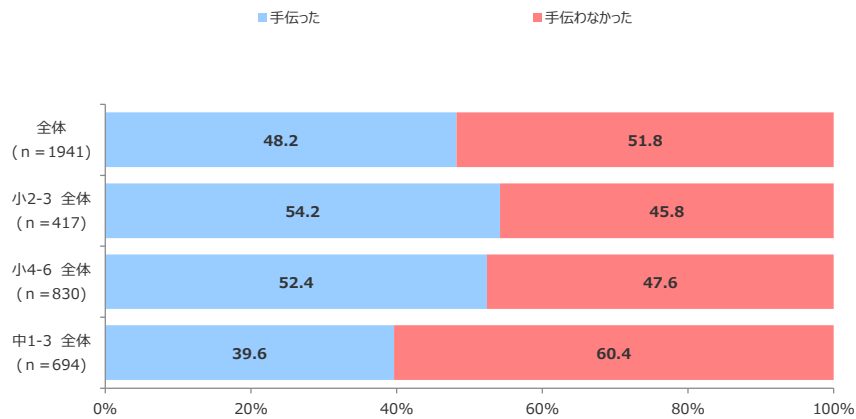


子供の自由研究を手伝ったか

昨年の夏休みの宿題に自由研究が出された小学校2年生から中学校3年生の子供がいる男女に、自身が子供の自由研究を手伝ったかを聞いた。全体計では、「手伝った」が48.2%、「手伝わなかった」が51.8%だった。

学齢別に親が「手伝った」割合をみると、「小2-3」が54.2%、「小4-6」が52.4%、「中1-3」が39.6%で、学齢が低いほど親が「手伝った」割合が高かった。小学生の自由研究については、過半数の親が手伝ったという結果となった（図26）。

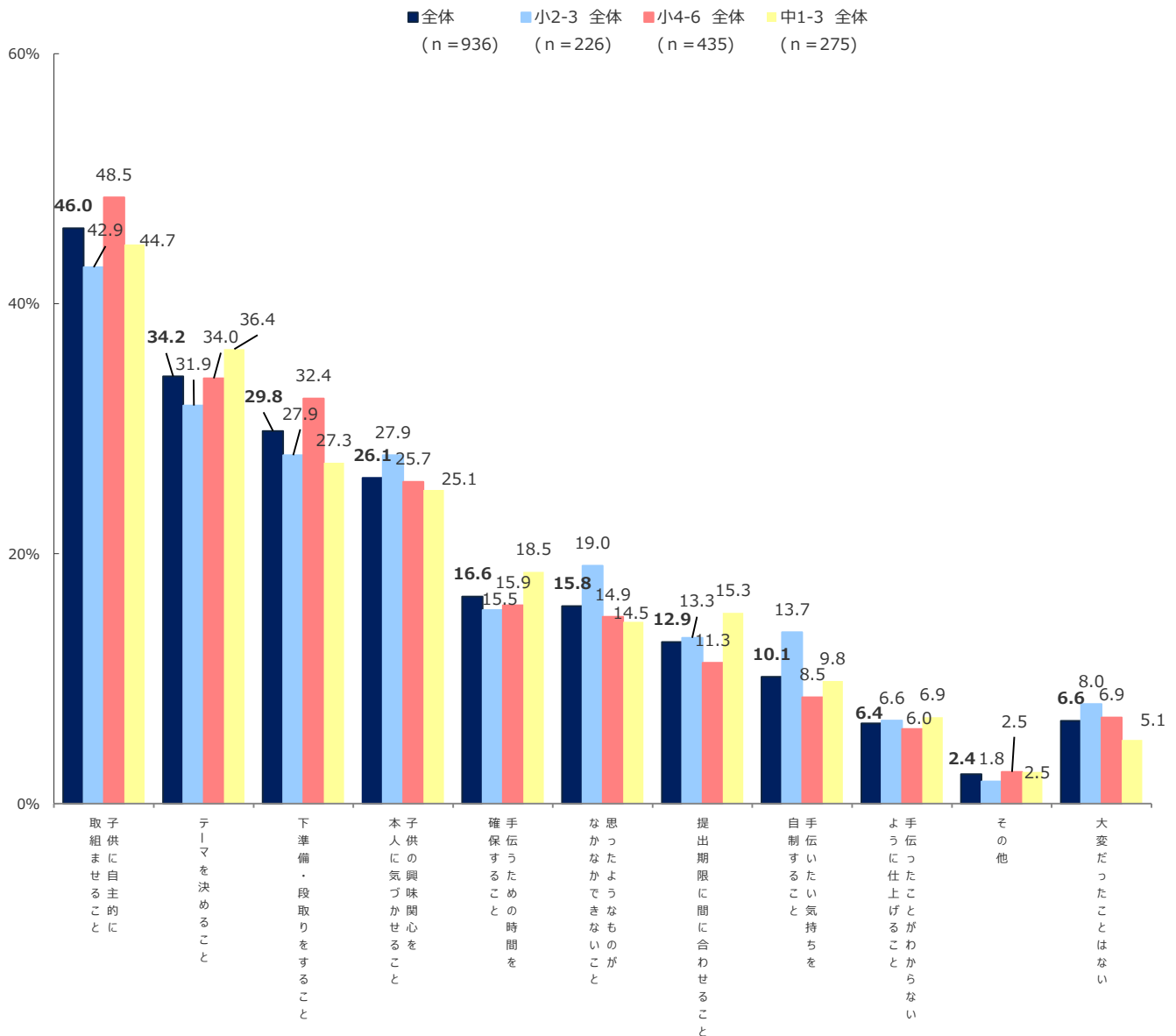
【図26】子供の自由研究を手伝ったか



自由研究で大変だったこと

昨年の夏休みの宿題の自由研究を「手伝った」と回答した男女に、どのようなことが大変だったかを聞いたところ、「子供に自主的に取組ませること」が最も多く46.0%、次いで「テーマを決めること」34.2%、「下準備・段取りをすること」29.8%、「子供の興味関心を本人に気づかせること」26.1%の順となった（図27）。

【図27】自由研究で大変だったこと（3つまで）

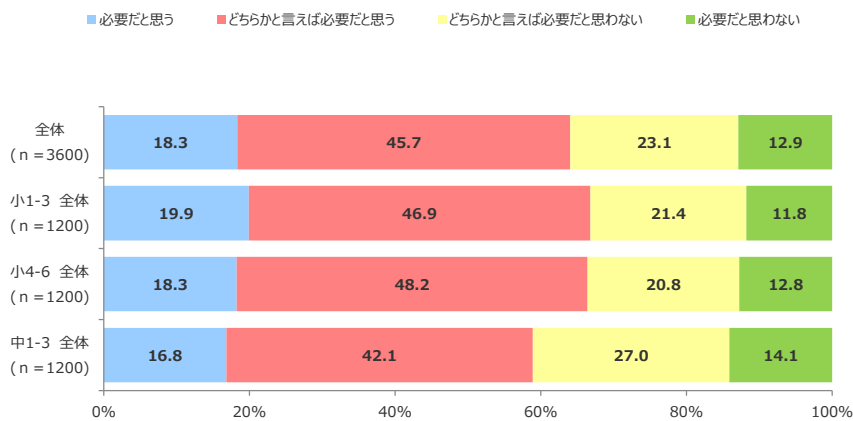


夏休みの宿題に自由研究は必要か

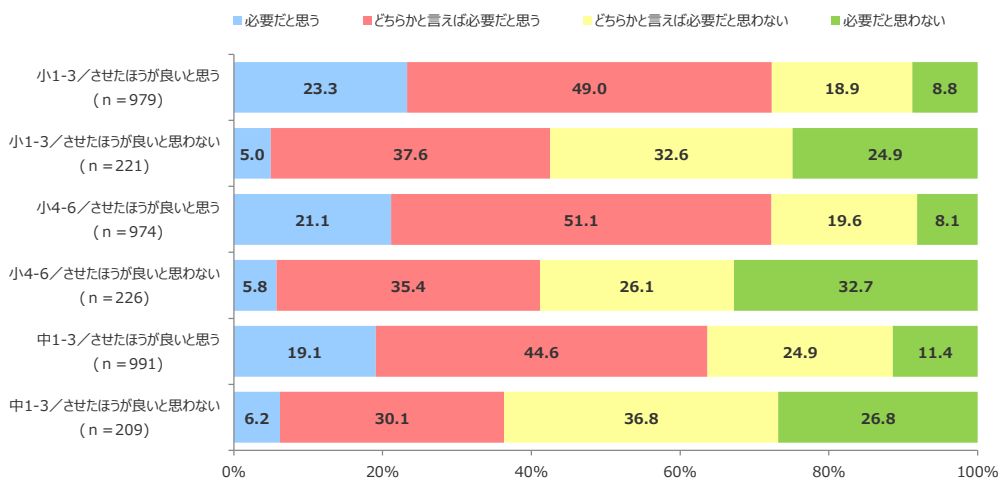
小学校1年生から中学校3年生の子供がいる男女に、夏休みの宿題の自由研究は子供にとって必要だと思うかを聞いたところ、「必要だと思う」18.3%、「どちらかと言えば必要だと思う」45.7%、「どちらかと言えば必要だと思わない」23.1%、「必要だと思わない」12.9%となった。「どちらかと言えば」の選択肢をそれぞれまとめると、「必要だと思う（どちらかと言えば含む/以下同）」が64.0%、「必要だと思わない（どちらかと言えば含む/以下同）」が36.0%である。「必要だと思う」を年齢別にみると、「小1-3」で66.8%、「小4-6」で66.5%、「中1-3」で58.9%となっていた（図28.1）。

これを「23.子供が将来より充実して働くために夏休みに何か経験させたほうが良いと思うか」との関係でみると、「させたほうが良いと思う」の方が、「させたほうが良いと思わない」と比べて、自由研究は「必要だと思う」の回答割合が高い。具体的には、「小1-3」で72.3%、「小4-6」で72.2%、「中1-3」で63.7%となり、それぞれの年齢で30ポイント程度高くなっている（図28.2）。

【図28.1】夏休みの宿題に自由研究は必要か



【図28.2】夏休みの宿題で自由研究は必要か：子供が将来より充実して働くために夏休みに何か経験させたほうが良いと思うか別

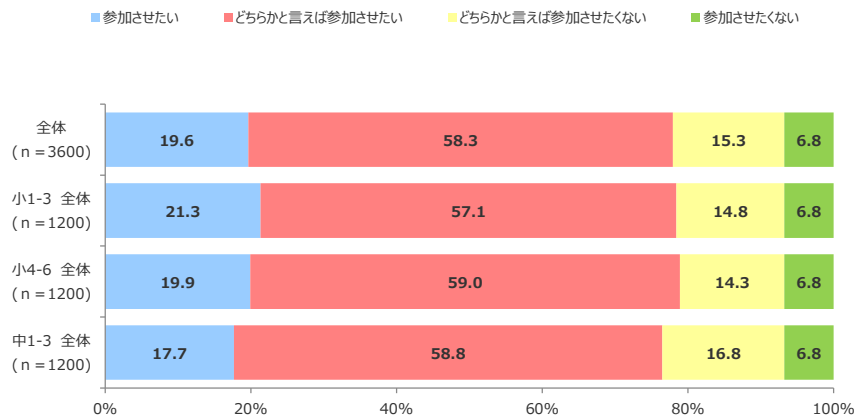


「身の回りの大人の働く姿に ふれるような課題」への参加意向

小学校1年生から中学校3年生の子供がいる男女に、夏休みの宿題の自由研究として、「身の回りの大人の働く姿にふれるような課題があれば子供に参加させたいかを聞いたところ、「参加させたい」19.6%、「どちらかと言えば参加させたい」58.3%、「どちらかと言えば参加させたくない」15.3%、「参加させたくない」6.8%となった。「どちらかと言えば」の選択肢をそれぞれまとめると、「参加させたい（どちらかと言えば含む／以下同）」が77.9%、「参加させたくない（どちらかと言えば含む／以下同）」が22.1%である。「参加させたい」を学齢別にみると、「小1-3」で78.4%、「小4-6」で78.9%、「中1-3」で76.5%となっていた（図29.1）。

これを「23.子供が将来より充実して働くために夏休みに何か経験させたほうが良いと思うか」との関係でみると、「させたほうが良いと思う」の方が、「させたほうが良いと思わない」と比べて、課題に「参加させたい」の回答割合が高い。具体的には、「小1-3」で87.0%、「小4-6」で87.8%、「中1-3」で85.3%となり、それぞれの学齢で50ポイント程度高くなっている（図29.2）。

【図29.1】夏休みの宿題の「自由研究」として、「身の回りの大人の働く姿にふれるような課題」への参加意向



【図29.2】夏休みの宿題の「自由研究」として、「身の回りの大人の働く姿にふれるような課題」への参加意向
：子供が将来より充実して働くために夏休みに何か経験させたほうが良いと思うか別

